

STANDARD

VHF FM TRANSCEIVER

FT-270

取扱説明書



安全上のご注意 2

お使いになる前に 5

基本操作 12

メモリーを使う 20

スキャンを使う 26

各種の便利な機能 28

必要に応じて使う機能 40

付録 62

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書に記載の社名・商品などは、各社の商標または登録商標です。
本機を使用するためには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目次

簡単クイックガイド	i	メモリーバンクスキャン	26
安全上のご注意	2	メモリーバンクリンクスキャン	26
お使いになる前に	5	プログラムスキャン	27
付属品を取り付ける	5	プログラマブルメモリースキャン	27
アンテナを取り付ける	5	各種の便利な機能	28
ベルトクリップを取り付ける	5	ページャー機能	28
電池パックを準備する	6	DTMF ページャー機能	30
電池パックを付ける	6	EAI 機能	32
電池パックを外す	6	スマートサーチ機能	35
電池パックを充電する	7	ARTS 機能	36
乾電池ケースの使い方 (オプション)	8	トーンスケルチ機能と DCS 機能	37
使用時間の目安と残量表示	8	緊急を知らせる (エマージェンシー機能)	39
外部電源を接続する	9	必要に応じて使う機能	40
各部の名称と働き	10	パスワード機能	41
ディスプレイの説明	11	プライオリティ機能	41
基本操作	12	DTMF 機能を使う	42
電源を入れる	12	スキヤンスキップ設定	43
音量を調節する	12	指定メモリースキャン機能	43
スケルチレベルを調節する	12	RF スケルチ機能を使う	44
周波数をあわせる	13	自動的に電源をオフする (APO)	44
送信する	13	連続送信時間を制限する (TOT)	44
送信出力を切り替える	14	受信中に誤って	
VFO を選択する	14	送信しないようにする (BCLO)	45
状態が変わらないようにロックする	15	照明の点灯条件を変更する	45
オールリセットをする	15	ベル機能を使う	45
WIRESS で交信する	16	電池 (電源) 電圧を表示する	45
メモリーを使う	20	操作音が鳴らないようにする	46
メモリーに書き込む	20	マニュアルでステップを切り替える	46
メモリーを呼び出す	22	プログラマブルキー機能	46
ホームチャンネルを呼び出す	22	CWID の設定	47
メモリーを消す	22	メモリーオンリーモード	47
メモリーチューン機能	23	セットモード	49
セミデュプレックスメモリー	23	パケット通信に使う	60
メモリーバンクを使う	24	クローン操作	61
メモリーバンクに登録する	24	付録	62
メモリーバンクを呼び出す	25	アマチュア無線局免許申請書の書きかた	62
通常メモリーモードに戻す	25	周波数の使用区分	64
メモリーバンクへの登録を解除する	25	防水 IPX7 相当について	64
スキヤン操作	26	故障かな?と思ったら	65
VFO スキャンとメモリースキャン	26	索引	66
		定格	68
		キー操作早見表	69

取扱説明書の読みかた

例として次のように表記します。

「を短く押します。」または「を 0.5 秒以上押します。」

..... キーを短く押したり長く (0.5 秒以上) 押して機能がかわる場合の表記

「を押します。」

..... キーを長く (0.5 秒以上) 押す機能が無い場合の表記

○..... 操作のアドバイスなどを補足しています。

▲..... ご使用時 / 運用時の警告として特に注意していただきたい内容を説明しています。

●..... ご使用時 / 運用時に注意していただきたい内容を説明しています。

簡単クイックガイド

④ 【送信(PTT)スイッチ】

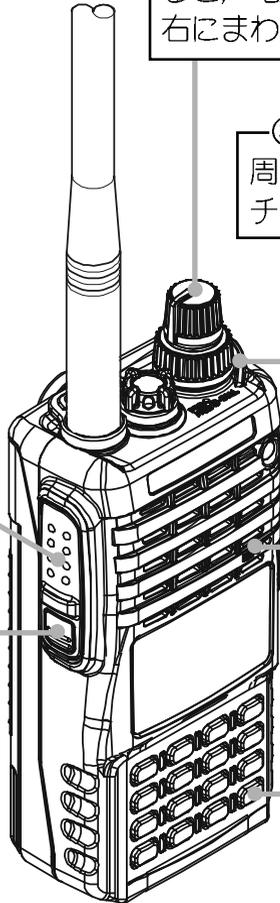
押しながら話します。
離すと受信します。

① 【電源スイッチ / 音量(VOL)つまみ】

“カチッ”と音がするまで右にまわすと
電源が入ります。
“カチッ”と音がするまで左にまわしき
ると、電源が切れます。
右にまわすほど、音が大きくなります。

③ 【ダイヤル(DIAL)つまみ】

周波数を変えたり、メモリー
チャンネルを選択します。



【マイク】

② 【モニタースイッチ】

押し続けているあいだ、一時的に
スクリーンをオフにします。

⑤ 【ロックキー】

キーを0.5秒以上押すと、周波数や
動作が変わってしまったりしない
よう、キー、スイッチ、つまみなど
をロックすることができます。

簡単クイックガイド

キー操作早見表			
キー	直接押す	0.5 秒以上押す	 を押した後に押す
	インターネットモード	WIFESの アクセスコード選択	セットモード
	1を入力	—	トーンスケルチの種類選択
	2を入力	ARTS機能	トーンまたはDCSコード選択 (トーンまたはDCS動作時のみ)
	3を入力	スマートサーチ	送信出力の変更 (HIGH : 5W/MID : 2W/LOW : 0.5W)
	4を入力	エマージェンシー機能	レピータシフト
	5を入力	—	ベル機能
	6を入力	プログラムスキャン	メモリー名 / 周波数表示の切り替え
	7を入力	—	プログラマブル1キー (受信セーブ時間の設定)
	8を入力	—	プログラマブル2キー (ランプモードの設定)
	9を入力	—	DTMF 送出方法選択
	メモリーモード切り替え	メモリー書き込みモード	スキップメモリーの設定
	VFO-A/VFO-B切り替え	VFO時：プログラムスキャンの動作選択 メモリー時：メモリーバンクの選択	プライオリティ機能
	ファンクションモード	ロック機能	ファンクションモードの解除
	周波数/ メモリーチャンネルの変更	UP 方向スキャン	周波数 / メモリーチャンネルの変更
	周波数/ メモリーチャンネルの変更	DWN 方向スキャン	周波数 / メモリーチャンネルの変更
	リバーズ (レピータ動作時のみ)	—	ホームチャンネル呼び出し

特 徴

EAI(エマージェンシーオートマッチングID)！ 32 ページ

仲間との登山やハイキングの時、不慮の事故で自分の意識が無くなった時や、動けなくなった時などに、自分の行方を仲間を探索してもらうための機能です。

ページャー機能！ 28 ページ

2つのトーンを使用した、新しいページャー機能で、仲間同士で運用中に、特定の局だけ呼び出すことができます。

DTMF ページャー機能！ (オプション) 30 ページ

3桁のDTMF信号を使用した、DTMF ページャー機能です。オプションのFTD-7を搭載することにより、仲間同士で運用や、特定の局だけ呼び出すことができます。

パスワード機能！ 40 ページ

4桁の正しいパスワードを入力しないと、電源が入りませんので、他人の無断使用などを防ぐことができます。

WiRES-II アクセス機能を搭載！ 16 ページ

インターネットに接続して通信距離を飛躍的に拡大するWiRES-IIシステムを利用することができます。

水深 1m30 分の防水設計 (IPX7 対応) 64 ページ

スペシャルファンクションモード！

モニタースイッチを押しながら電源を入れると、スペシャルファンクションモードになり、セットモードリセット(51ページ)、メモリーリセット(21ページ)、メモリーバンクリセット(25ページ)、オールリセット(15ページ)、メモリーオンリーモード(47ページ)、クローン機能(61ページ)を行うことができます。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止して障害の有無や程度を確認してください。

《参考》無線局運用規則

第9章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若くは、与える虞があるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。

(以下省略)

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機 アンテナ系を点検し障害に応じてお近くの営業所/サービス、またはお買い上げの販売店などに相談するなどして、適切な処置を行ってください。

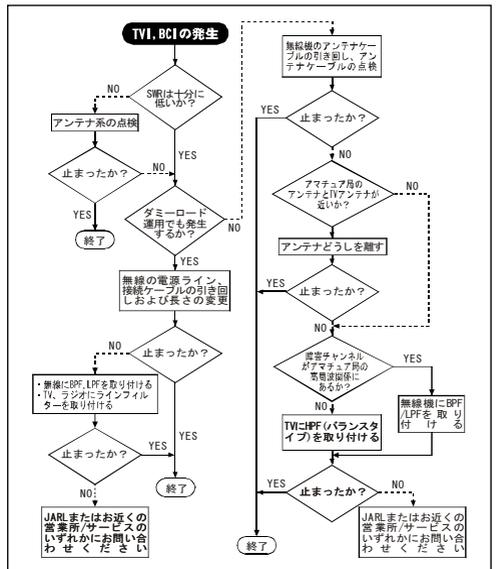
受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、おすかしい場合もあります。

(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)

〒170-8073 東京都豊島区巣鴨1-14-5

TEL 03-5395-3111



安全上のご注意

安全上のご注意（必ずお読みください）

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた障害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号の種類と意味

	本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。
	本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。

 危険	
 航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では使用しないでください。電子機器や医療用電子機器に影響を与える場合があります。	 心臓ペースメーカーなどの医療機器を装着している方に配慮し、混雑した場所では送信しないでください。本機からの電波が医療機器に影響をおよぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。
 自動車やバイクなどを運転しながら使用しないでください。事故の原因になります。運転者が使用するときは、必ず安全な場所に車を止めてから使用してください。	 電池パックから漏れている液などに素手で触れないでください。皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすおそれがあります。この場合、直ちに医師の診断を受けてください。
 心臓ペースメーカー等の医療機器を装着されている方は、携行した状態では送信しないでください。送信する場合は、外部アンテナを使用し、できるだけアンテナから離れて送信してください。本機からの電波が医療機器に影響をおよぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。	 電池パックの端子をハンダ付けしたり、ショートさせたりしないでください。火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒を持ち運ばないでください。ショートするおそれがあります。



警告



-  指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。
-  電池パックを指定機器以外の用途に使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  水のかかる場所では使用しないでください。故障の原因になります。もし、ケースなどが濡れた場合は、電源をすぐにオフにし、乾いた布などで拭いてください。
濡れたまま放置すると、故障や感電などの原因になります。
-  長時間の連続送信はしないでください。本体の温度が上昇し、発熱などの原因で故障ややけどの原因になることがあります。
-  外傷、変形の著しい電池パックを使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

-  分解や改造をしないでください。
ケガ・漏液・感電・火災・故障の原因になります。
-  無線機、電池パックおよびバッテリーチャージャーから煙が出ていたり、変な臭いがするときは、電源をオフにして電池パックを取り外し、電源コードをコンセントから抜いてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火・故障などの原因になります。お買い上げいただきました販売店または営業所/サービスにご連絡ください。
-  当社指定以外のバッテリーチャージャーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。
-  電池パックの端子はいつもきれいにしておいてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



注意



-  アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしないでください。
本人や他人にあたり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。
-  人の多い場所では使用しないでください。アンテナが他人にあたりケガの原因になります。
-  本機を直射日光のあたる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形・変色などの原因になります。
-  本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。
-  送信中はできるだけ身体からアンテナを離してください。
長時間身体に電磁波を受けると、身体に悪影響をおよぼす場合があります。
-  長期間ご使用にならない場合には、安全のため、電源をオフにし、電池パックを外してください。

-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。
-  強い衝撃を加えたり、投げつけたりしないでください。
故障の原因になります。
-  磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。
-  イヤピースマイクロホン、イヤホン、ヘッドホンなどを使用するときは、音量を大きくしないでください。
聴力障害の原因になります。
-  小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。
ケガなどの原因になります。

注意

-  電池パックは5℃～35℃の温度範囲内で充電してください。
この温度範囲外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。

 付属のバッテリーチャージャーで当社指定の電池パック以外は充電しないでください。
火災や故障の原因になります。

 使用済の電池パックは、端子にテープなどを貼って絶縁してから破棄してください。

 引火性のガスの発生する場所でバッテリーチャージャーを使用しないでください。
発火事故の原因になることがあります。

 バッテリーチャージャーを使用しないときは、コンセントから抜いてください。

 バッテリーチャージャーの電源コードの上に重い物を載せないでください。
電源コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

 バッテリーチャージャーをコンセントから外すときは、必ずバッテリーチャージャー本体を持ってください。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因になります。

 電池パックおよび乾電池ケースを本体から外すときは、必ずコイン等を使用してロックを外してください。
直接指でロックを外すと、指や爪を痛める場合があります。

同梱品

ご使用になる前に、梱包品をご確認ください。

本体 (FT-270)	1	ベルトクリップ式	1
アンテナ	1	取扱説明書	1
電池/パック (FNB-83)	1	保証書	1
バッテリーチャージャー (NC-86A)	1	ご愛用者カード	1

- 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを、ご確認ください。
- 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

オプション

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 7.2V,1400mAh NiMH
 バッテリーパック (同梱品と同等) • アルカリ電池用ケース • バッテリーチャージャー (同梱品と同等) • 急速充電器 (約3時間充電) • CD-47用ACアダプター • シガープラグ付き外部電源アダプター • 外部電源ケーブル | <ul style="list-style-type: none"> • 防水型スピーカーマイク • スピーカーマイク • イヤピースマイク • VOXヘッドセット • BNC-SMA アンテナ変換コネクタ • マイクアダプター • DTMF ページャーユニット |
|---|--|

オプションは、当社純正品のご使用をおすすめします

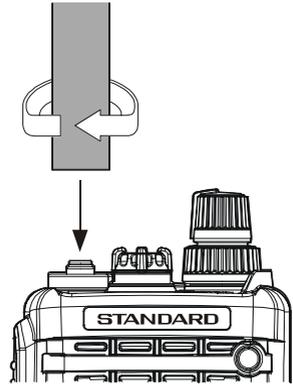
本製品は、当社純正の専用オプションと組み合わせて使用した場合に、最適な性能を発揮するように設計されておりますので、当社純正オプションのご使用をおすすめいたします。
なお、当社純正品以外のオプションを使用が原因で生じた故障や事故などの損害については、弊社では一切責任を負いませんので、ご承知ください。

付属品を取り付ける

■アンテナを取り付ける

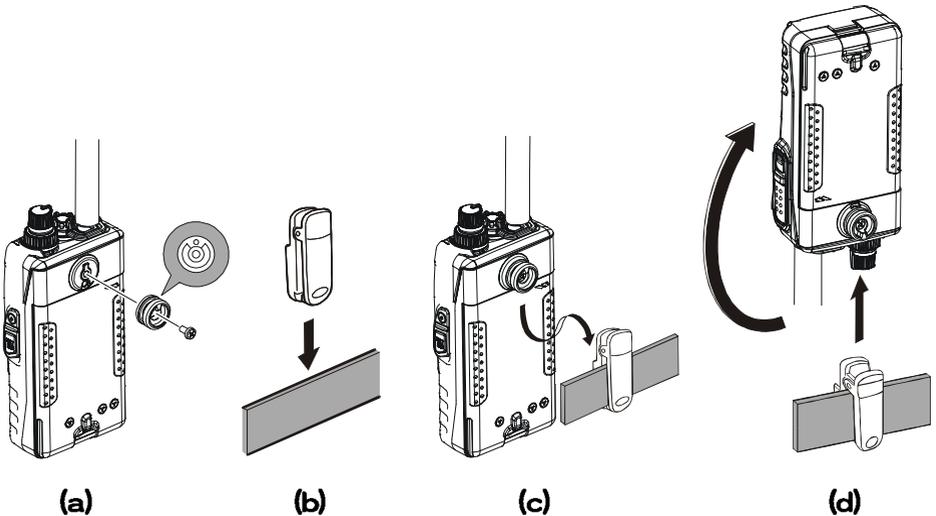
アンテナのコネクターに近い部分を持って、時計方向にまわして取り付けます。

- アンテナの取り付けおよび取り外し時は、アンテナの上部を持ってまわさないでください。アンテナの内部で断線する場合があります。
- アンテナを取り付けない状態で、送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。
- 付属以外のアンテナを使用する場合や、外部のアンテナを接続する場合には、SWRが1.5以下に調整されたものを使用してください。



■ベルトクリップを取り付ける

1. フックの丸印がある突起部分を上にし、付属のビスでFT-270に取り付けます (a)。
2. ベルトクリップをベルトに取り付けます (b)。
3. フックをベルトクリップの背面にあるくぼみ部分に挿入し、「カチッ」と音がするまでスライドします (c)。
4. FT-270をベルトクリップから外すときは、FT-270を180°回転させ、引き抜きます (d)。



- フックの固定には、必ず付属のビスを使用してください。他のビスを使用すると、しっかり固定できなかったり、本体の内部に損傷を与える場合があります。
- フックを使用せず、ビスのみを本機に取り付けしないでください。本機の内部に損傷を与える場合があります。

電池パックを準備する(1)



ご注意：防水機能を保つため、ロックは硬めに設計されています。

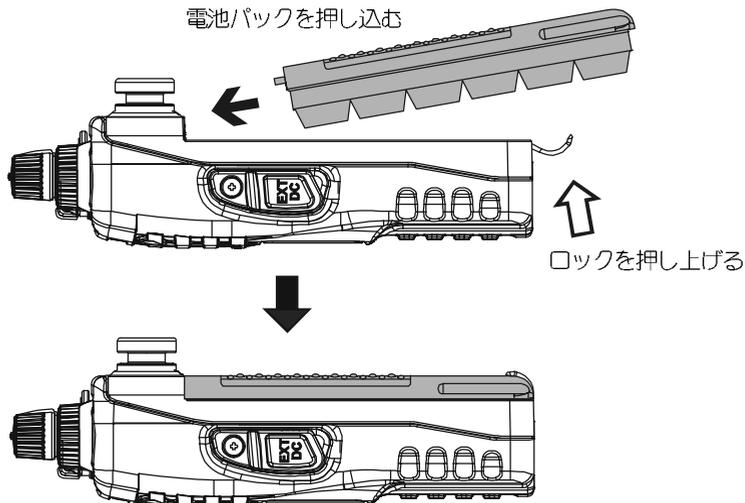
ロックを外すときにはコインなどを使って、指や爪などを痛めないよう、十分注意してください。

■電池パック（乾電池ケース）を付ける

お買い上げ後、または長期間使用していない電池/パックは、充電してからお使いください。

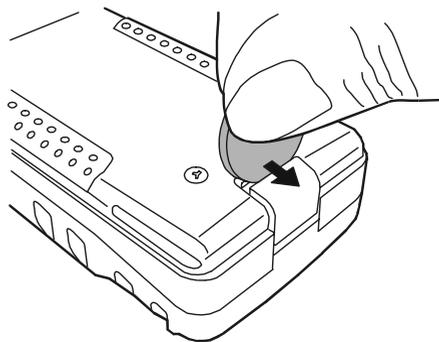
1. 電池パック（乾電池ケース）を押し込んで入れます。
2. 「カチッ」と音がするまで、ロックを押し上げます。

電池パックを押し込む



■電池パック（乾電池ケース）を外す

1. コインなどで矢印の方向にスライドし、ロックを外します。
2. 電池パック（乾電池ケース）を引き抜きます。



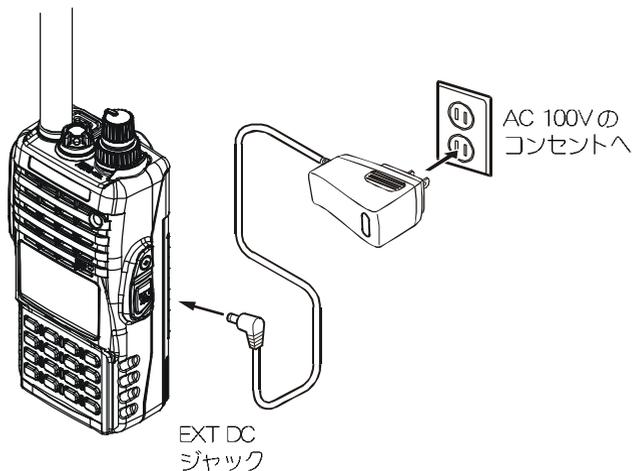
電池パックを準備する(2)

■電池パックを充電する(約 10 時間充電)

1. FT-270 の電源を“オフ”にします。
2. 付属のバッテリーチャージャー (NC-86A) を、FT-270 の EXT DC 端子に接続すると、充電が開始します。
3. 約 10 時間で充電は完了します。

充電が完了したら、バッテリーチャージャー (NC-86A) を、EXT DC 端子から抜いてください。充電したままにしておくと、電池パックを劣化させることがあります。

- 使用中にバッテリーチャージャーが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- 充電は、周囲の温度が $+5^{\circ}\text{C}$ ~ $+35^{\circ}\text{C}$ の場所で行ってください。
- 電池パックが消耗すると “” が点滅します。すみやかに充電してください。
- 付属のバッテリーチャージャーは、充電専用です。受信や送信をすることはできません。
- 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがありますので、できるだけ離して充電してください。
- ときどき端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。



乾電池ケースの使いかた(オプション)

オプションの乾電池ケース(FBA-35)を用意しておく、単三形アルカリ電池6本で使用することができます。

- 使用できる乾電池はアルカリ乾電池だけです。マンガン乾電池は使用できません。
- 古い電池と新しい電池を混ぜて使用すると、乾電池の寿命を短くすることがあります。
- 長時間使用しない場合は、乾電池ケース(FBA-35)から乾電池を取り外しておいてください。
- ときどき乾電池ケース(FBA-35)の端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

使用時間の目安と残量表示

フル充電した電池パック(FNB-83)および、オプションの乾電池ケース(FBA-35：単三形アルカリ乾電池使用)で使用できる時間の目安は次のとおりです。

使用バンド	電池パック / 乾電池	アイコン表示
144MHz 帯	約8時間※1	通常は、アイコン表示はありません。  : 残りわずかです。
受信のみ	約14時間※2	 : 空になりました。すみやかに充電してください。

上記の使用時間の目安は、下記の使いかたの場合です。

※1：ハイパワーで送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒

※2：FNB-83使用、音声出力50%、連続受信時

上記の使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、使いかたや温度などによって異なります。

外部電源を接続する

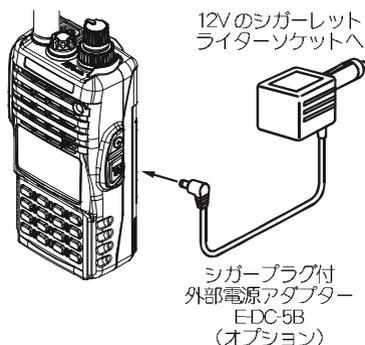
オプションのシガープラグ付外部電源アダプター (E-DC-5B) または、外部電源コード (E-DC-6) を使用すると、充電しながら送受信を行うことができます。オプションの取扱説明書もあわせてご覧ください。

- FT-270 の電源をオフにした状態での充電時間は、約 10 時間です。なお、FT-270 の電源をオンにして充電すると、充電時間は多少長くなります。
- 周囲の温度が +5°C ~ +35°C の場所で充電を行ってください。
- 満充電の状態でも繰り返し充電を行うと、電池パックの寿命を短くすることがありますので、外部電源で運用するときは、十分ご注意ください。
- ときどき、端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく充電できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
- 市販の安定化電源に、外部電源ケーブル “E-DC-6” を接続して使用する場合は、次の点にご注意ください。
 - ・ 電源電圧が 12V ~ 14V の範囲であること。
 - ・ “E-DC-6” の赤黒線をプラス (+) に、黒線をマイナス (-) に接続すること。
 - ・ 電流容量に十分余裕があるもの (3A 以上) をご使用ください。
 - ・ 付属のアンテナを接続して使用すると、安定化電源が誤作動を起こし、故障の原因になります。市販の外部アンテナを接続して、FT-270 を安定化電源から十分な距離をおいてください。

お
使
い
に
な
る
前
に

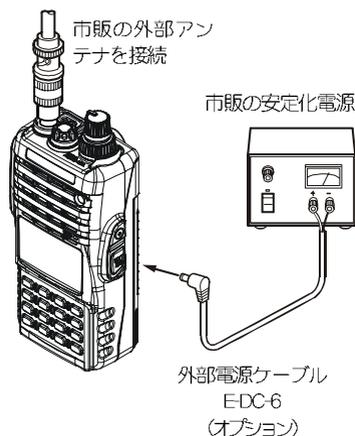
■シガレットライターに接続する

1. FT-270 の電源を“オフ”にします。
2. オプションのシガープラグ付外部電源アダプター (E-DC-5B) のプラグを、FT-270 の EXT DC 端子に接続します。
3. シガープラグ付外部電源アダプター (E-DC-5B) のシガープラグを、車のシガレットライターソケット (12V) に接続します。



■市販の安定化電源を接続する

1. FT-270 の電源を“オフ”にします。
2. オプションの外部電源ケーブル (E-DC-6) の“赤黒線”を安定化電源のプラス (+) 端子に、“黒線”をマイナス (-) 端子に接続します。
3. 外部電源ケーブル (E-DC-6) のプラグを、FT-270 の EXT DC 端子に接続します。



各部の名称と働き

お使いになる前に

MC/SP 端子

オプションのスピーカーマイクやイヤピースマイクを接続します。

音量(VOL)ツマミ

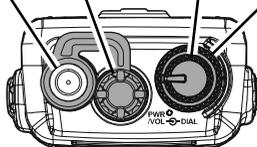
右にまわすほど、音が大きくなります。
“カチッ”と音がするまで左にまわし
きると、電源がオフになります。

アンテナ端子(SMA)

付属のアンテナを接続します。

ダイヤル(DIAL)ツマミ

周波数を変えたり、メモリー
チャンネルを選択します。



スピーカー

送信(PTT)スイッチ
押しながら話します。
離すと受信します。

TX/BUSY ランプ

送信すると“赤色”，信号を
受信すると“緑色”に点灯し
ます。

マイク

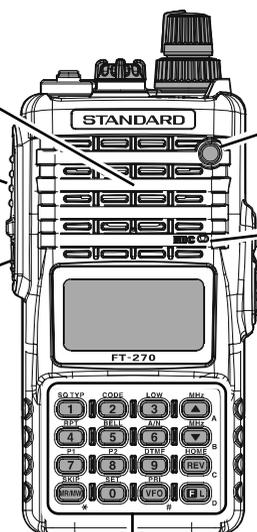
モニタースイッチ

押し続けているあいだ、一時的に
スケルチをオフにします。

EXT DC 端子

電池パックを充電するときは、
この端子にバッテリー
チャージャー“NC-86A”を
接続します。

また、外部電源を使用する
ときは、オプションのシガーブ
ラグ付外部電源アダプター
“E-DC-5B”や、外部電源ケー
ブル“E-DC-6”を接続します。

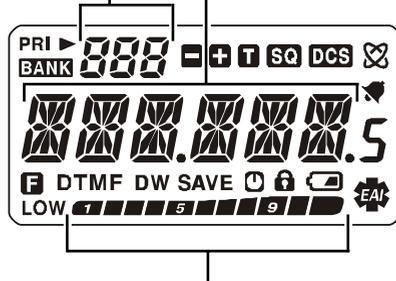


キーボード

ディスプレイの説明

メモリーチャンネル番号を表示

運用周波数やセットモード設定項目を表示



受信している信号の強弱を表示 (Sメーター)

送信時は、送信出力を棒グラフで表示 (POメーター)

HIGH パワー (約 5.0W)	
MID パワー (約 2.0W)	
LOW パワー (約 0.5W)	

お使いになる前に

アイコン	動作説明
	スキップメモリーや特定メモリーが指定されたメモリーチャンネルを呼び出し中に表示
PRI	プライオリティチャンネルを表示中に表示
BANK	メモリーバンク呼び出し時に表示
	EAI (エマージェンシオートマッチクID) 機能が動作中に表示
F	ファンクションモード時に表示
	ロック機能が動作時に表示
LOW	送信出力が "LOW" または "MID" の時に表示
SAVE	バッテリーセーブ機能が動作中 (セーブ中) に表示
	ベル機能が動作中に表示
	WiRESなどのインターネット通信時に表示

アイコン	動作説明
	オートパワーオフ機能が動作時に表示
DW	プライオリティ機能が動作時に表示
	レピーター運用時にシフト方向を表示
T	トーンエンコーダーがオンの時に点灯
SQ	
DCS	T SQ : トーンスケルチがオンの時に点灯
	DCS : DCSがオンのときに点灯
	バッテリーの状態を表示 なし : ほぼ一杯に充電されています : 残りわずかです : すぐに充電してください (点滅) (アルカリ電池使用時は、新しいアルカリ電池に交換してください)

基本操作

電源を入れる

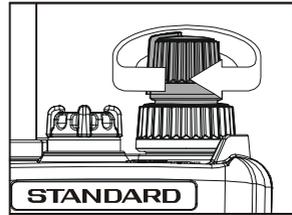
VOL ツマミを右にまわすと、電源がオンになります。

電源をオンにすると、下図のように電源電圧を表示した後、周波数を表示し受信します。



工場出荷時には 145.000MHz の周波数がセットされています。

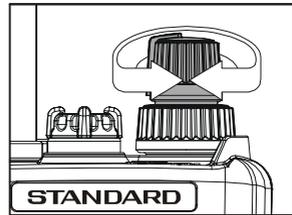
VOL ツマミを「カチッ」と音がするまで左にまわしきると、電源がオフになります。



音量を調節する

VOL ツマミをまわして、受信音を調節します。

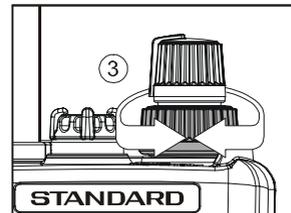
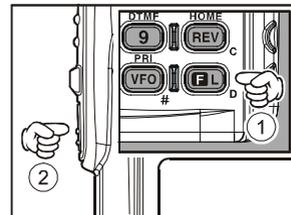
音量を調節するとき、スピーカーから何も聞こえていない場合は、モニタースイッチを押して「ザー」という雑音を聞きながら VOL ツマミをまわしてください。



スケルチのレベルを調節する

信号が入感していないときに出る、耳障りなノイズを消すことができます。

- ① **[M] を短く押します。**
- ② **モニタースイッチを短く押します。**
- ③ **DIAL ツマミでスケルチを調節します。**
 - 信号が入感していないときの「ザー」というノイズが消える位置までまわします。
LVL 0 ~ LVL 15 まで調節できます。
数字が大きいほどノイズは消えやすくなりますが、弱い信号が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください (工場出荷時 : LVL 2)。
 - 約5秒間何も操作しないと周波数表示に戻ります。
- ④ **PTT スイッチを短く押します。**

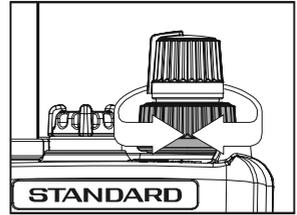


周波数をあわせる

周波数をあわせる方法として「DIAL ツマミをまわす」、「/」を短く押す、「テンキーで入力する」3種類の方法があります。

◎ DIAL ツマミをまわして周波数をあわせます。

DIAL ツマミを右にまわすと周波数は高くなります。
DIAL ツマミを左にまわすと周波数は低くなります。



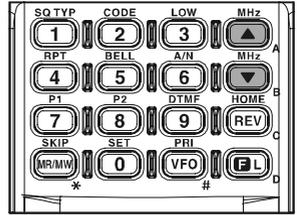
◎ /」を短く押して周波数をあわせます。

を短く押すごとに周波数は20kHz単位で高くなります。

を短く押すごとに周波数は20kHz単位で低くなります。

○  キーを押した後DIAL ツマミをまわす(または / キーを押すと、1MHz単位で変化します。

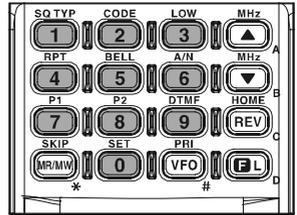
○ セットモード“45:STEP”により、DIAL ツマミをまわしたとき(または / キーを押したとき)の周波数変化量を、変更することができます(46ページ参照)。



◎ テンキーで入力して周波数をあわせます。

テンキーであわせる場合は、10MHzの桁から5桁の数字で指定します。

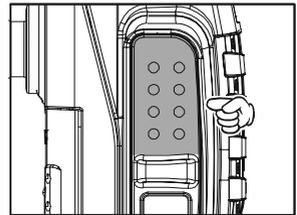
例：145.500MHzにあわせる場合



基本操作

送信する

1. PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話します。
マイクと口元の間隔は、5cmくらいが適当で、普通の声で話してください。
2. PTTスイッチを離すと、受信に戻ります。



- セットモード“49:TXSAVE”の設定を“ON”にすると、相手局の信号強度が強いとき、送信出力が自動的に下がりますので、バッテリーの消耗を抑えることができます(57ページ参照)。
- セットモード“5:BCLO”の設定を“ON”にすると、信号を受信中に送信しようとした際、送信を禁止することができます。
- 長時間送信し続けると、過熱防止保護機能が働き「ビビビピッ」と警告音とディスプレイに“HEAT”を表示し、送信出力が自動的にローパワーになります。また、過熱防止保護機能が働いているときにさらに送信を続けると、強制的に受信状態に戻ります。過熱防止保護機能が働いた直後に本機を触れるとやけどの原因になることがありますので、セット内部の温度を十分下げてから送信してください。
- アンテナを取り付けられない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。

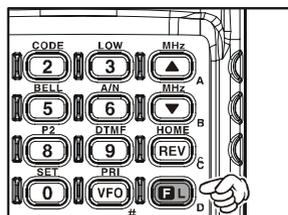
状態が変わらないようにロックする

誤って周波数などが変わってしまったりしないように、キーやツマミをロックすることができます。

[F4]を“**🔒**”が点灯するまで0.5秒以上押します。

ディスプレイに“**🔒**”が点灯してロックが動作します。

ロックを解除するときは、もう一度**[F4]**を“**🔒**”が消灯するまで0.5秒以上押します。



- セットモード“26:LOCK”の設定を変えることにより、ロックする動作状態を変更(PTTスイッチもロックさせるなど)することができます。

オールリセットをする

すべての設定やメモリーをクリアして、お買い上げ時の状態に戻すことができます。

1. “モニタースイッチ”と“PTTスイッチ”を押しながら電源をオンにします。

ディスプレイに“F1 SETRST”が表示されたら、スイッチから指を離してください。

2. DIAL ツマミをまわして“F4 ALLRST”を表示させます。

3. **[F4]**を押すと、自動的に“電源オフ”⇒“電源オン”の動作を行い、オールリセットは終了します。

リセット操作を中止したい場合は、PTTスイッチを押してください。



オールリセットを行うと、メモリーした内容は全て消去されます。

メモリー内容は必ず紙などに控えておくようにしてください。

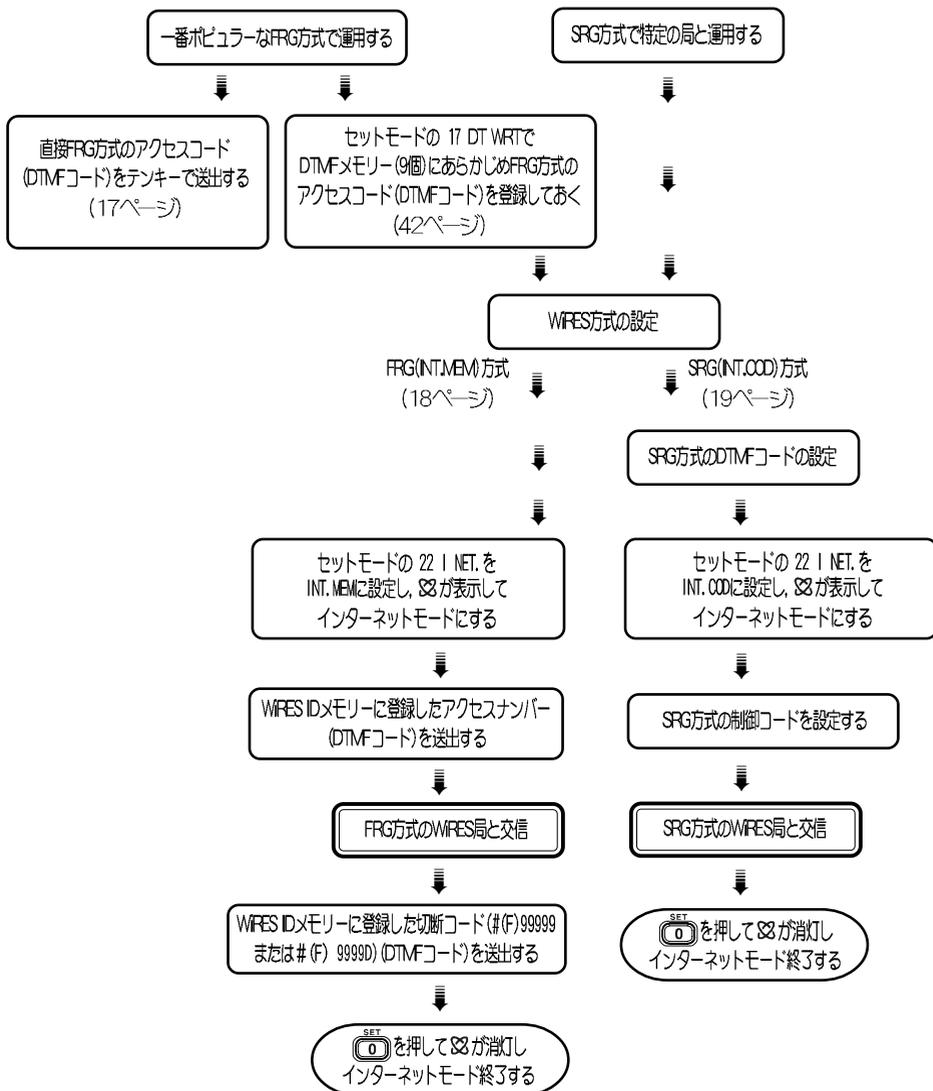
- セットモードの設定値だけを、工場出荷時の値に戻すことができます (F1 SETRST: セットモードリセット: 51ページ)。
- メモリーチャンネルの内容だけを、すべて消去(メモリーチャンネル“1”を除く)することができます (F2 MEVRST: メモリーリセット: 21ページ)。
- メモリーチャンネルのメモリーバンク情報だけを、すべて消去(メモリーチャンネル自体は消去されません)することができます (F3 MB RST: メモリーバンクリセット: 25ページ)。

WiRES-II で交信する(1)

FT-270は、以下の操作方法で、簡単にWiRES局を利用したインターネット通信を行うことができます。ローカルQSOと同じようにFT-270を使用して、北海道から沖縄、そして海外にいるアマチュア無線の仲間と、インターネットを通じて通信することができます。

あらかじめ、お近くのWiRES局のアクセスコードや周波数をパーテックススタンダードのホームページ(<http://www.vxstd.com/jp/>)等でご確認ください。なお、WiRES-IIには不特定多数の相手と交信を行う“FRG方式”と、特定の相手局と通信を行う“SRG方式”があります。

■ WiRES-II での交信操作の流れ



WiRES-II で交信する(2)

FT-270は、以下の操作方法で、簡単にWiRES局を利用したインターネット通信を行なうことができます。

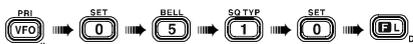
あらかじめ、お近くのWiRES局のアクセスコードや周波数を、バーテックススタンダードのホームページ(<http://www.vxstd.com/jp/>)等でご確認ください。

■ローカルのWiRES局を手動でアクセスする(FRG方式)

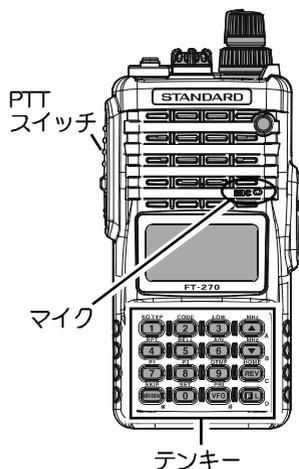
FRG方式のWiRES-IIをアクセスするには、ローカルのWiRES局に対して、インターネットを介して接続したいWiRES局のアクセスコード(6桁のDTMF信号)を送出することでアクセスすることができます。アクセスコード(6桁のDTMF信)は、バーテックススタンダードのホームページ(<http://www.vxstd.com/jp/>)等で、一般者向けに「WiRES-IIリスト」として公開されております。あらかじめ、WiRES局の周波数とアクセスコードを確認してください。

1. アクセスコードを確認後、よく使用するアクセスコードをPTTスイッチを押しながらテンキーで直接DTMFコードを送出してPTTをアクセスします。

例) #0510Dを送出する場合



2. WiRES-IIが接続されたら、PTTスイッチを押したままマイクに向かって話します。
3. 交信を終了するときは、PTTスイッチを押しながらテンキーで切断コード (#9999Dまたは#99999)を送出します。



基本操作

WiRES-II で交信する(3)

■ローカルのWiRES局をアクセスする(FRG方式)

FRG方式のWiRES局をアクセスするには、ローカルのWiRES局に対して、インターネットを介して接続したいWiRES局のアクセスコード(6桁のDTMF信号)を送出することでアクセスすることができます。アクセスコード(6桁のDTMF信号)はバーテックススタンダードのホームページ(<http://www.vxstd.com/jp/>)等で一般利用者向けに「WiRES ID リスト」として公開されております。

あらかじめ、WiRES局に周波数とアクセスコードを確認してください。

1. あらかじめアクセスコードと切断コード (#(F) 99999 または、#(F) 9999D) をDTMFメモリーに登録しておきます。

DTMFメモリーの登録方法は、42ページの「DTMFコードの登録」を参照してください。



2. **[SET]** を短く押し、次に **[0]** を押してセットモードにします。
3. DIAL ツマミまたは **[▲]** / **[▼]** で、“22:I NET” を選択します。
4. **[SET]** を押します。



5. DIAL ツマミまたは **[▲]** / **[▼]** で、“INT.MEM” を選択し、PTTスイッチを押して確定させます。

ディスプレイの右上に“⊗”が表示します。



6. **[SET]** を1秒以上押し、DIAL ツマミまたは **[▲]** / **[▼]** で、送出したいアクセスコード(DTMFコード)を登録したDTMFメモリーのチャンネル(“I MEM 1” ~ “I MEM 9”)を表示させ、PTTスイッチを押して確定させます。

工場出荷時にはあらかじめ“I MEM 1”が設定されています。

7. ローカルのWiRES局の周波数にあわせませす。
8. PTTスイッチを押し **[0]** を押しと選択したアクセスコードが送出されますので、PTTスイッチを押したままマイクに向かって話します。
DTMFが送出され、インターネットを介してWiRES局をアクセスすることができます。
あとは、一般の交信と同様に行ないます。
9. 交信が終了したら、操作6.で、切断コード (#(F) 99999 または #(F) 9999D) を登録したDTMFメモリーチャンネルを呼び出し、そのDTMFコードを送出します。
10. インターネットモードをオフにするには **[SET]** を押します。
ディスプレイの右上にある“⊗”の表示が消えます。

DTMF コマンド

WiRESのソフトウェアは、受信したDTMF信号により、以下のような動作を行います。

#6666D #66666	ID コマンド	他のWiRES局との接続状況を知らせるコマンドです。
#7777D #77777	CQ コマンド	オンラインリスト表示している中から、ランダムに選択したWiRES局のIDへ接続します。
#8888D #88888	RECONNECT コマンド	直前に接続していたWiRES局のIDへ再接続します。
#9999D #99999	DISCONNECT コマンド	接続を切断するときのコマンドです。

WiRES-II で交信する(4)

■ローカルのWiRES局をアクセスする(SRG方式)

SRG方式のWiRES局をアクセスするには、ローカルのWiRES局に対して、インターネットを介して接続したいWiRES局のアクセスコード(1桁のDTMF信号)を送出することでアクセスすることができます。あらかじめ、WiRES局に周波数とアクセスコードを確認してください。

1. **[SET]**を短く押し、次に**[0]**を押してセットモードにします。
DIAL ツマミ(または**[▲]**/**[▼]**)で、“22:I NET”を選択します。
2. **[SET]**を押します。
3. DIAL ツマミまたは**[▲]**/**[▼]**で、“INT.COD”を選択し、PTTスイッチを押して確定させます。
ディスプレイの右上に“☒”が表示します。
4. **[0]**を1秒以上押し、DIAL ツマミまたは**[▲]**/**[▼]**で、送出したいアクセスコード(DTMFコード“ICOD 0”~“ICOD F”)を表示させ、PTTスイッチを押して確定させます。
工場出荷時にはあらかじめDTMF 1(ICOD 1)が設定されています。
5. ローカルのWiRES局の周波数にあわせてます。
6. PTTスイッチを押してアクセスコードを送出後、PTTスイッチを押したままマイクに向かって話します。
PTTスイッチを押すと、自動的にアクセスコードが送出されます。
7. PTTスイッチを押すたびに、操作4. でセットしたアクセスコードが送出され、インターネットを介してWiRES局をアクセスすることができます。
8. インターネットモードをオフにするには**[0]**を押します。
ディスプレイの右上にある“☒”の表示が消えます。

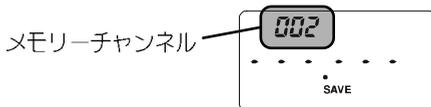


メモリーを使う

メモリーに書き込む (1)

よく使用する周波数を記憶させることができるメモリーチャンネルが 200 チャンネルあります。

1. VFO モードで、記憶させたい周波数にあわせます。
2.  を 0.5 秒以上押すと、空いているメモリーチャンネルが表示され点滅します。



- メモリーチャンネルが点滅中に何の操作もせず約 10 秒間放置すると書き込み操作を解除します。
- DIAL ツマミまたは、 /  で希望のメモリーチャンネルを選択することができます。

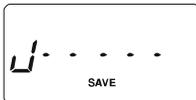
3.  を短く押すと、メモリーに書き込まれます。
ディスプレイに約 2 秒間 “MEM-IN” と表示され、メモリー書き込みを行う前の状態に戻ります。

■メモリーを書き込む際に、メモリーチャンネルに名前を付ける

1. VFO モードで、記憶させたい周波数にあわせます。
2.  を 0.5 秒以上押すと、空いているメモリーチャンネルが表示され点滅します。
3.  を 0.5 秒以上押します。

- ディスプレイに約 2 秒間 “MEM-IN” と表示され、名前登録表示に切り替わります。

4. DIAL ツマミをまわして、メモリーチャンネルに付けたい名前を表示させます。
使用できる文字・記号は、右ページを参照してください。



-  を押すとカーソルの位置を一文字送ることができます。
-  を押すとカーソルの位置を一文字前に戻すことができます。
-  を押すと、点滅している文字とその文字以降を削除することができます。
- PTT スイッチを押すと、名前を付けずにメモリーを書き込みます。

5.  を押すと、次の桁の文字を選択することができます。
6. 操作 4. ~ 5. を繰り返して、名前を入力します (最大 6 文字)。
6 文字入力したときは  または  を押すと、メモリーの書き込みが終了します。



7.  を 0.5 秒以上押すと、メモリーの書き込みが終了します。

メモリーに書き込む (2)

- メモリーチャンネルとホームチャンネル(22ページ)は、**通用周波数やメモリーの名前表示以外に、モード(電波型式)、レピータ情報、トーンスケルチ/DCS情報、メモリースキップ情報、送信出力なども同時に記憶することができます。**
- あらかじめメモリーチャンネル1には“145.000MHz”が書き込まれています。
- メモリーチャンネル以外に割り当てられているL1～L10およびU1～U10は、プログラマブルメモリースキャン(PMS)用のメモリーチャンネルです(27ページ：プログラマブルメモリースキャン)。
- メモリーチャンネルを、使用目的ごとのバンク(グループ)に分けて整理することができます(24ページ：メモリーバンク)。
- すでにメモリーされているチャンネルには、周波数(またはメモリーの名前)が表示されます。
- セットモード『29:NM WRT』により、すでにメモリーされているチャンネルに、名前を付けることができます。
- 同じメモリーチャンネルに送受信別の周波数とスケルチ情報をメモリーすることができます(23ページ：セミデュプレックスメモリー)。
- メモリーした周波数を消去することができます(22ページ：メモリーを消す)。

注意

メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は、必ず紙などに控えておくようにしてください。

メモリーリセット

メモリーチャンネルの内容を初期化して工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. “モニタースイッチ”と“PTTスイッチ”を押しながら電源を入れます。
ディスプレイに“F1 SETRST”が表示されます。
2. DIAL ツマミをまわして“F2 MEMRST”を選択します。
3.  を押すと、メモリーした内容だけを初期化することができます。
ディスプレイのS/POメーターが消去の進行状況を示します。

メモリーを使う

メモリーチャンネルにつけることができる文字・記号

スペース	1	^	o	5	%	8	'	<	/	*	+	,
..	,	/	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
!	,	<	=	1	P	Q	R	S	T	U	V	F
G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
T	U	V	W	X	Y	Z	[]	^	_		

メモリーを呼び出す

1. **SKIP (PRM)** を短く押してメモリーモードにし、DIAL ツマミまたは **▲/▼** で希望のメモリーチャンネルを選びます。

テンキーを使用して、直接メモリーチャンネルを呼び出すこともできます。

例：メモリーチャンネル“123”を呼び出す場合



2. **PRI (VFO)** を押すと、VFOモードに戻ることができます。

- メモリーモードのときに **SKIP (PRM)** を押してDIAL ツマミをまわす(または **▲/▼**)と、メモリーの内容を一時的に変更することができます(下記：メモリーチューン機能)。
- メモリーモードのときに、**[M]** を押してDIAL ツマミをまわす(または **▲/▼**)と、登録されているメモリーチャンネルを10桁単位で変更することができます。
- メモリーに名前を付けたときには、周波数の代わりに名前を表示することができます。名前表示にしたいときは、セットモードの『28：NAME』を“ALPHA”に切り替えてください。
- メモリーモードだけで運用することができます(47ページ：メモリーオンリーモード)。

ホームチャンネルを呼び出す

よく使用する周波数を記憶させることができ、ワンタッチで呼び出すことができる“ホームチャンネル”です。ホームチャンネルにはあらかじめ145.000MHzが登録されています。

1. **[M]** を短く押し、次に **HOME (REV)** を押します。

再び **[M]** を短く押し、次に **HOME (REV)** を押すと、ホームチャンネルに移る前の周波数(またはメモリーチャンネル)に戻ります。

ホームチャンネル
呼び出し中に点灯



- ホームチャンネルを呼び出し中に、DIAL ツマミをまわす(または **▲/▼**)と、ホームチャンネルの周波数がVFOにコピーされ、VFOモードで運用することができます。

■ホームチャンネルの周波数を変える

1. VFOモードで、記憶させたい周波数にあわせませう。
2. **SKIP (PRM)** を0.5秒以上押します。
3. **HOME (REV)** を押して終了です。

ディスプレイに約2秒間“HOMEIN”が表示され、ホームチャンネルの周波数を書き換えます。

メモリーを消す

メモリーチャンネルにメモリーした内容を消去することができます。

1. メモリーモードで、**SKIP (PRM)** を0.5秒以上押します。
2. DIAL ツマミまたは **▲/▼** で、消去したいメモリーチャンネルを呼び出します。
3. **[M]** を押すと消去されます。

- メモリーチャンネル“1”は消すことができません。

メモリーチューン機能

呼び出したメモリーチャンネルの内容を一時的に変更することができます。

1. メモリーモードで、 を短く押すと、メモリーチューン機能が動作します。
ディスプレイに“tun”が表示されます。
2. DIAL ツマミ(または  / ) で、一時的に周波数を変更することができます。
3.  を短く押すと、メモリーチューン機能が動作する前のチャンネルに戻ります。



- メモリーチューンのときに  を 0.5 秒以上押すと、呼び出しているメモリーチャンネルの周波数が VFO にコピーされ、VFO モードで適用することができます。

セミデュプレックスメモリー

同じメモリーチャンネルに送受信別の周波数を記憶させることができます。

1. VFO モードで、記憶させたい受信周波数にあわせませう。
 2.  を 0.5 秒以上押すと、空チャンネルが表示され点滅します。
 - メモリーチャンネルが点滅中に何の操作もせず約 10 秒間放置すると、書き込み操作を解除します。
 - DIAL ツマミ(または  / ) で、希望のメモリーチャンネルを選択することができます。
 3.  を押します。
 - ディスプレイに約 2 秒間“MEM-IN”が表示されます。
 -  を 0.5 秒以上押すと、メモリーに名前を付けることができます (20 ページ参照)。
 4. 送信周波数をあわせませう。
 - トーンスケルチ / DCS 情報をメモリーしたい場合は、 ⇒  ⇒ DIAL ツマミでスケルチの種類を選択します (37 ページ参照)。
 - スケルチの種類を選択した後、 ⇒  ⇒ DIAL ツマミでトーン周波数 (または DCS コード) を選択します (37, 38 ページ参照)。
 - 受信側と違うトーン周波数または DCS コードを設定することができます。
 5.  を 0.5 秒以上押し、DIAL ツマミ(または  / ) で、受信周波数をメモリーしたチャンネルにあわせませう。
 6. PTT スイッチを押しながら  を短く押して終了です。
ディスプレイに約 2 秒間“MEM-IN”が表示されます。
- セミデュプレックスメモリーチャンネルを呼び出したときは、ディスプレイに“ ”が表示されます。
-  を押すと、一時的に送信周波数と受信周波数を入れ替えるリバー스가動作します。動作中はディスプレイの“ ”が点滅します。解除するには、もう一度  を押します。

記憶されたトーン周波数 / DCS コードを確認するには

1.  を短く押し、次に  を押します。
 - 受信側のトーン周波数 / DCS コードを表示します。
 - ディスプレイ左上に“r”が点灯します。
 - DIAL ツマミをまわすと受信側のトーン周波数または DCS コードを一時的に変えることができます。
 -  を押すと、一時的に送信周波数と受信周波数を入れ替えるリバー스가動作します。
2. PTT スイッチを押して送信すると、送信側のトーン周波数 / DCS コードを表示します。
 - ディスプレイ左上に“t”が点灯します。
3.  を短く押します。

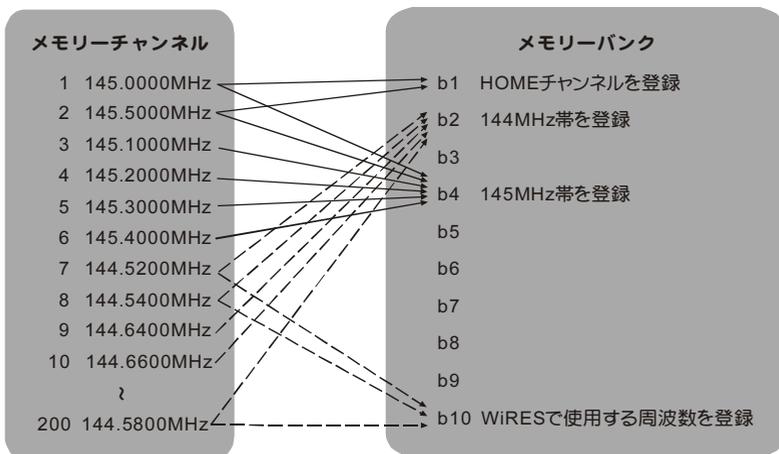
r: 受信側のトーン周波数 / DCS コードを表示中に点灯
t: 送信側のトーン周波数 / DCS コードを表示中に点灯



メモリーバンクを使う (1)

メモリーチャンネルを、使用目的ごとのバンク(グループ)に分けて整理することができます。メモリーバンクは 10 バンクあり、メモリーに書き込んだすべてのメモリーチャンネルを 1 つのメモリーバンクに登録することができます。

また、メモリーチャンネルを複数のメモリーバンクに登録することもできます。メモリーバンクに登録したメモリーチャンネルを変更または更新すると、メモリーバンク内のメモリーチャンネルの内容も変更されます。



■メモリーバンクに登録する

1. 登録したいメモリーチャンネルを呼び出します。

メモリーチャンネルL1～U10は、メモリーバンクに登録することができません。

2. を 0.5 秒以上押し、DIAL ツマミ(または /) で、希望のメモリーバンクを選びます。

- メモリーバンクは“BANK 1”～“BANK 10”から選ぶことができます。なお、メモリーバンクを使用しない場合は“NOBANK”を選択してください。
- メモリーバンク選択中に、何の操作もせず約5秒間放置すると、登録操作を解除します。
- 番号が点滅しているメモリーバンクには、何も登録されてません。

3. を 0.5 秒以上押します。

選んだメモリーバンクに、メモリーチャンネルが登録され、メモリーモードに戻ります。同じメモリーチャンネルを、他のメモリーバンクにも登録したい場合は、再び操作4.～5.を行ってください。

メモリーバンクを使う (2)

■メモリーバンクを呼び出す

1. メモリーモードで、**[VFO]** を 0.5 秒以上押します。
2. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で、希望のメモリーバンクを選びます。

○ メモリーバンクは “BANK 1” ~ “BANK 10” から選ぶことができます。



3. **[SKIP]** を押すと、選んだメモリーバンクが呼び出されます。

- DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で、呼び出したメモリーバンクに登録されたメモリーチャンネルだけを選択することができます。
- いったん、メモリーバンクを呼び出した後に VFO モードに戻った場合、その状態でメモリーの書き込み操作を行うと、最後に呼び出していたメモリーバンクに登録されます。
(“NOBANK” を選択している場合は、メモリーバンクには登録されません。)

■通常のメモリーモードに戻す

1. メモリーモードで、**[VFO]** を 0.5 秒以上押します。
2. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で、“NOBANK” を選びます。
3. **[SKIP]** を押します。

メモリーバンクの動作が解除され、通常のメモリーモードの操作に戻ります。

■メモリーバンクへの登録を解除する

1. 上記 “メモリーバンクを呼び出す” を参考に、登録を解除したいメモリーチャンネルが登録されているメモリーバンクを呼び出します。
2. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で、登録を解除したいメモリーチャンネルを選びます。
3. **[VFO]** を 0.5 秒以上押します。
4. **[E]** を 0.5 秒以上押します。

メモリーバンクへの登録が解除され、操作 1. で呼び出したメモリーバンクの状態に戻ります。
なお、登録を解除したことにより、メモリーバンクが “空” になる場合は、通常のメモリーモードに戻ります。

メモリーバンクリセット

メモリーバンクの登録を初期化して工場出荷時の状態 (NOBANK : 未登録) に戻すことができます。

1. “モニタースイッチ” と “PTT スイッチ” を押しながら電源を入れます。
ディスプレイに “F1 SETRST” が表示されます。
2. DIAL ツマミをまわして “F3 MB RST” を選択します。
3. **[E]** を押すと、メモリーバンクの登録だけを初期化することができます。

スキャン操作

VFO スキャンとメモリースキャン

信号がある周波数またはメモリーチャンネルを自動的に探します。

1. **▲ または ▼ を 0.5 秒以上押すと、スキャンを開始します。**
▲ を押すと周波数の高い方に(メモリーモード時はチャンネル番号が大きい方に)、▼ を押すと周波数の低い方に(メモリーモード時はチャンネル番号が小さい方に)スキャンし、信号を受信するとスキャンが一時停止して、約 5 秒後に再びスキャンを開始します。
2. **▲ または ▼ を押すと、スキャンを中止します。**
PTT スイッチを押してもスキャンを中止することができます。

- スキャン中に DIAL ツマミを左(右)方向にまわすと、周波数の低(高)い方にスキャンします。
- スキャン停止中は、ディスプレイのデシマルポイントが点滅します。
- セットモード『32 : RESUME』により、スキャンが一時停止後、再びスキャンが開始する条件を設定することができます。
- メモリーモードでスキャンを動作させると、メモリーされたチャンネルだけをスキャンします。
- スキャンしたくないメモリーチャンネルを指定することができます(43ページ:スキャンスキップ設定)。
- スキャンしたいメモリーチャンネルを指定することができます(43ページ:指定メモリースキャン設定)。

メモリーバンクスキャン

呼び出したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルだけをスキャンします。

1. **▲ を 0.5 秒以上押し、DIAL ツマミ(または ▲/▼) で、スキャンしたいメモリーバンクを選び、SKIP を押します。**
2. **▲ または ▼ を 0.5 秒以上押すと、スキャンを開始します。**
3. **再度 ▲ または ▼ を押すと、スキャンを中止します。**
PTT スイッチを押してもスキャンを中止することができます。

■メモリーバンクリンクスキャン

通常は、呼び出したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルだけをスキャンしますが、続けて他のメモリーバンクをスキャンすることもできます。

1. **メモリーモードで、▲ を 0.5 秒以上押します。**
2. **DIAL ツマミ(または ▲/▼) で、バンクリンクスキャンをしたいメモリーバンクを選びます。**
3. **☑ を押すと、バンクリンクが指定されます。**
バンクリンクが指定されると、ディスプレイのデシマルポイントが点灯します。
4. **操作 2. ~ 3. を繰り返して、スキャンしたいメモリーバンクを指定します。**
5. **6 を 0.5 秒以上押すと、約 1 秒間 “M3L SCAN” を表示します。その後、指定したメモリーバンクに登録されたメモリーチャンネルだけを連続でスキャンします。**
6. **▲ または ▼ を押すと、スキャンを中止します。**
PTT スイッチを押してもスキャンを中止することができます。

- スキャン中に DIAL ツマミを左方向にまわすと、メモリーチャンネル番号の小さい方にスキャンします。
- バンクリンクスキャンの指定を解除するには、再度上記の操作を行い、操作 3. で指定を解除したいメモリーバンクを選び ☑ を押してください(ディスプレイのデシマルポイントが消えます)。

プログラムスキャン

VFOモードでスキャンを行う際、スキャンの動作条件を変更することができます。

1. ** を 0.5 秒以上押します。**
ディスプレイの“P”が点滅中に、何の操作もせず約5秒間放置すると変更操作を中止します。
2. 下表を参考して、DIAL ツマミ(または  / ) で、希望のスキャン動作を選びます。

表示	動作
±1MHz	スキャンを開始した周波数を中心に、上下1MHzの範囲(合計2MHzの範囲)をスキャンします。
±2MHz	スキャンを開始した周波数を中心に、上下2MHzの範囲(合計4MHzの範囲)をスキャンします。
±5MHz	スキャンを開始した周波数を中心に、上下5MHzの範囲(合計10MHzの範囲)をスキャンします。
ALL	全ての周波数帯をスキャンします。
PMSxx	下記の“PMS”が登録されている場合は、そのPMSに登録された周波数間をスキャンします。

3. ** を短く押し、 を 0.5 秒以上押しと選択した条件でスキャンを開始します。**
4. ** または  を押しと、スキャンを中止します。**
PTTスイッチを押してもスキャンを中止することができます。
PMSxxを選択してスキャンしていた場合は、 を押すことで、通常のメモリーモードに戻ることができます。

- スキャン中に DIAL ツマミを左(右)方向にまわすと、周波数の低(高)い方にスキャンします。
- スキャン停止中は、ディスプレイのデシマルポイントが点滅します。
- セットモード『32:RESUME』により、スキャンが一時停止後、再びスキャンが開始する条件を設定することができます。

プログラマブルメモリースキャン(PMS)

希望する周波数間だけをスキャンします。

上限周波数と下限周波数は、必ず同じバンド内の周波数をメモリーしてください。

1. 希望の下限周波数を $L*(1 \sim 10)$ に、上限周波数を $U*(L \text{ と同じ数字})$ にメモリーします(20ページ参照)。
周波数をメモリーする際は、メモリーバンクの設定を“NOBANK”にしてください(25ページ参照)。
2. 操作 1. でメモリーしたチャンネル(L1~L10/U1~U10のいずれか)を呼び出します。
3. ** を押します (“tun” が点灯します)。**
4. ** または  を 0.5 秒以上押しと、スキャンを開始します。**
スキャン中に  を押しと、プログラマブルメモリースキャンが停止し、メモリーチューンの状態でメモリーモードになります。
続けて  を押しとメモリーチューンは解除されます (“tun” は消灯します)。

- セットモード『32:RESUME』により、スキャンが一時停止後、再びスキャンが開始する条件を設定することができます。

各種の便利な機能

ページャー機能 (1)

仲間同士で運用時、それぞれ個別コード(2つのCTCSSトーンを使用したコード)を設定することにより、特定の局だけを呼び出しすることができます。

なお、呼び出された局は、呼び出しがあったときに無線機から離れていたとしても、ディスプレイの表示などで、呼び出しがあったことを知ることもできます。



A, B, C の3人で運用中



Bさんの個別コードを送信



Bさんだけが呼び出される

■自局のコードを設定する

自分が呼び出されるとき「個別コード(自分のコード)」を設定します。

1. **[SET]** を短く押し、次に **[0]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で、『18 : ECS.CDR』にあわせませす。
3. **[ENT]** を押した後、DIAL ツマミをまわして、1つ目のコード(01~50から選択)をあわせませす。
4. **[▲]** または **[▼]** を押した後、DIAL ツマミをまわして(**R**が移動します)、2つ目のコード(01~50から選択)をあわせませす。
1つ目と同じコードを設定することはできません。
2つのコードは、“05 47”と“47 05”のように、順番が違っても、同じコードとみなします。
5. PTTスイッチを押すと、設定は終了です。



1つ目のコード
2つ目のコード

■相手局のコードを設定する

特定の局を呼び出すときの「個別コード(相手局のコード)」を設定します。

1. **[SET]** を短く押し、次に **[0]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で、『19 : ECS.CDT』にあわせませす。
3. **[ENT]** を押した後、DIAL ツマミをまわして、1つ目のコードをあわせませす。
4. **[▲]** または **[▼]** を押した後(**T**が移動します)、DIAL ツマミをまわして、2つ目のコードをあわせませす。
5. PTTスイッチを押すと、設定は終了です。



1つ目のコード
2つ目のコード

ページャー機能 (2)

■ページャー機能を動作させる

ディスプレイに“**T**”“**T SQ**”“**DCS**”のいずれかが点灯または点滅しているとき(トーン機能・DCS機能が動作中)は、次の操作を行い、これらの表示を消して(動作を止めて)ください。

1. **[E]**を短く押し、次に^{SO TYP}**[1]**を短く押します。
2. DIAL ツマミ(または^{MHz}**[▲]**/^{MHz}**[▼]**)で、“OFF”にあわせて、PTTスイッチを押します。

1. **[E]**を短く押し、次に^{SO TYP}**[1]**を短く押します。
2. DIAL ツマミ(または^{MHz}**[▲]**/^{MHz}**[▼]**)で、『ECS』にあわせ、**[E]**またはPTTスイッチを短く押します。
3. PTTスイッチを押すと、ページャー機能が動作します。

この状態で、ページャー機能を使用した“呼び出し”や“待ち受け”を行うことができます。



新ページャー機能が動作中に点滅



■特定の局を呼び出す

1. 前ページの「相手局のコードを設定する」を参考に、呼び出したい局のコードを設定します。
2. 上記「ページャー機能を動作させる」を参考に、ページャー機能を動作させます。
3. この状態でPTTスイッチを押すと、目的の相手局を呼び出すことができます。

■待ち受け時の動作

ディスプレイに“**♥**”が点滅してベルが鳴り、相手局から呼び出されたことを確認することができます。

1. **[E]**を押して、続けて^{BELL}**[5]**を押します。
2. DIAL ツマミ(または^{MHz}**[▲]**/^{MHz}**[▼]**)で、呼び出されたときの動作を選択します。

呼び出しを受けると点滅



表示	動作
1 T	“ ♥ ”が点滅すると共に、ベルが「1回」鳴ります。
3 T	“ ♥ ”が点滅すると共に、ベルが「3回」鳴ります。
5 T	“ ♥ ”が点滅すると共に、ベルが「5回」鳴ります。
8 T	“ ♥ ”が点滅すると共に、ベルが「8回」鳴ります。
CONT	“ ♥ ”が点滅すると共に、ベルが鳴り続けます(トランシーバーの操作を行うと停止します)。
OFF	“ ♥ ”の点滅やベル音は動作しません。

3. PTTスイッチを押すと、設定は終了です。
4. この状態で呼び出しを受けると、操作2. で設定した動作を行います。

DTMF ページャー機能 (1) - オプションのFTD-7が必要 -

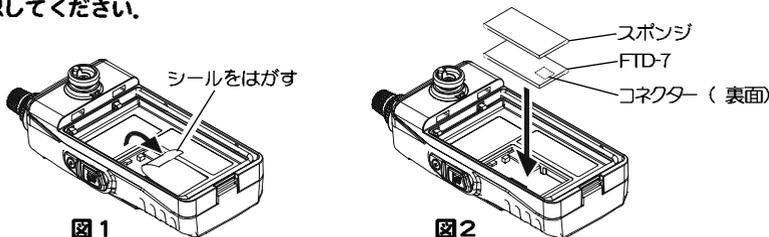
ページャ機能 (28, 29ページ参照) と同様、仲間同士で運用時、それぞれ個別コード (3桁のDTMFを使用したコード) を設定することにより、特定の局だけを呼び出しすることができます。

また、呼び出された局は、呼び出しがあったときに無線機から離れていたとしても、ディスプレイの表示などで、呼び出しがあったことを知ることもできます。

なお、この機能を使用する場合は、オプションのFTD-7を取り付けてください (取付方法は下記を参照)。FTD-7を取り付けると、セットモードの項目が5種類追加されます。追加されたセットモードの詳細は49ページの「セットモードの動作一覧」を参照してください。

■ DTMF ページャーユニット FTD-7 の取り付け

1. FT-270 の電源を切り、電池パックを外してシールをはがします (図1)。
2. FTD-7 をコネクターに差し込み、FTD-7 の上に付属のスポンジをのせます。
3. 付属の新しいシールを貼り、電池パックを取り付けます (図2)。
4. FT-270 の電源を入れると、ディスプレイの左上に“PGU”の表示が2秒間点灯します。
また、49ページの「セットモードの動作一覧」を参考にセットモードが5種類追加されているか確認してください。



■ ページャーコードを設定する

相手と同じページャーコードを設定します。

1. **[SET]** を短く押し、次に **[0]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で、『56 : PAG.COD』にあわせませす。
3. **[SET]** を押した後、DIAL ツマミをまわして、ページャーメモリー番号 (P1 ~ P9) を選択します。
4. **[SET]** を押した後、DIAL ツマミをまわして、1桁目のコードを設定します。
5. **[SET]** を押した後、DIAL ツマミをまわして、2桁目のコードを設定します。
6. **[SET]** を押した後、DIAL ツマミをまわして、3桁目のコードを設定します。
7. **[SET]** を押した後、**[HOME/REV]** を押してエンコーダー/デコーダー機能 (“呼び出し”と“待ち受け”) をオンにします (ディスプレイに“-”が表示されます)。



エンコーダー機能をオンにすると、同じページャーコードの相手呼び出すことができます。

[HOME/REV] もう一度押しと“-”は消灯し、デコーダー機能 (“待ち受け”) のみになります。

8. PTT スイッチを押すと、設定は終了です。

DTMF ページャー機能 (2) - オプションのFTD-7が必要 -

■ ページャー機能を動作させる

1. を短く押し、次に を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ (または /) で、『55 : PAGER』にあわせます。
3. DIAL ツマミ (または /) で、“ON”にあわせて、PTT スイッチを押します。

ページャー機能をオフにする場合は、“OFF”に設定します。
100MHz に“P”が表示され、ページャー機能がオンになります。

4. PTT スイッチを押すと、ページャー機能が動作し、同じページャーコードの相手呼び出します。

相手側のトランシーバーにページャーコードが表示されます。



■ ANI (Automatic Number Identification) 機能を設定する

相手局に数字 (0~9) とアルファベット (A~F) の文字を送ることができ、その設定を行います。

1. を短く押し、次に を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ (または /) で、『54 : ANI.WRT』にあわせ、 を押します。
3. もう一度 を押した後、DIAL ツマミをまわして、1文字目を選択します。
4. を押した後、DIAL ツマミをまわして、2文字目を選択します。
5. 操作3.、操作4. を繰り返し行い最大 16 文字まで入力することができます。

、 で文字の桁を送ったり戻すことができます。

6. を 0.5 秒以上押しします。

16 文字入力したときは を 0.5 秒以上押しする必要ありません。

PTT スイッチの下のモニタースイッチを押すと、入力した文字をDTMF 信号でモニターすることができます。

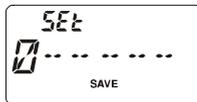
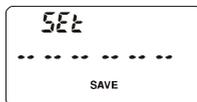
7. PTT スイッチを押すと、設定は終了です。

■ ANI 機能を動作させる

1. を短く押し、次に を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ (または /) で、『53 : ANI』にあわせます。
3. DIAL ツマミ (または /) で、“ON”にあわせて、PTT スイッチを押します。

ANI 機能をオフにする場合は、“OFF”に設定します。

4. PTT スイッチを押すと、ANI 機能が動作し、相手局のトランシーバーにページャーコードと文字 (ANI) が表示されます。

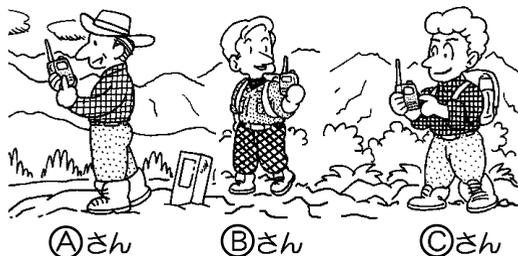


ページャーコード 文字 (ANI)

- セットモードの『57 PAG.ABK』を“ON”に設定すると、呼び出しを受けながら、自動的に送信(約2.5秒間)状態になりますので、交信可能な状態かどうかを、相手に知らせることができます。

EAI機能(1) (エマージェンシーオートマチックID)

仲間との登山やハイキングの時、不慮の事故で自分の意識が無くなった時や、動けなくなった時などに、自分の行方を仲間に探索してもらうための機能です。



A, B, Cの3人共、EAI周波数(145.500MHzなど)を、ページャー機能をオンにした状態で、メモリーチャンネル“200”にメモリーする。

Aさんは、自分の個別コード
“01_02”を設定する。

Bさんは、自分の個別コード
“03_04”を設定する。

Cさんは、自分の個別コード
“05_06”を設定する。

その後は、EAI周波数以外の周波数で通常の交信を行う。



AさんまたはCさんは、メモリーチャンネル“200”を呼び出し、
コードをBさんの個別コードである“03_04”にあわせて5秒以上送信

AさんまたはCさんの信号を受信すると
自動的に“ピー”音を間欠送信



EAI機能 (2) (エマージェンシーオートマチックID)

■ EAI機能を動作させるための設定を行う

1. あらかじめ、EAI機能を動作させるための“EAI用周波数”を仲間同士で決めておき、ページャーモードの設定を“ON”にした状態で、メモリーチャンネル“200”に、メモリーします。

メモリーのしかた

(例：145.500MHzをメモリーする場合)

1. VFOモードで、145.500MHzにあわせませす。
 2. を短く押し、次にを短く押しませす。
 3. DIAL ツマミ(または/)で『ECS』にあわせ、またはPTTスイッチを押しませす。
 4. この状態を、メモリーチャンネル“200”にメモリーませす。
手順は、を0.5秒以上押しませす⇒DIAL ツマミ(または/)で“200”にあわせませす⇒を押しませす。
 5. 上記の操作が終了後、操作3. の設定を“OFF”に戻してござさい。
- EAI機能が動作しなかりませすので、通常の交信は、EAI周波数以外の周波数で行ってござさい。

2. 次に、EAI機能を動作させる“個別コード”を仲間同士で決めておき、各個人毎に設定ませす。
(例：Aさんは“01 02”，Bさんは“03 04”，Cさんは“05 06”，など)

個別コードの登録方法

(例：01 02を登録する場合)

1. を短く押し、次にを短く押ししてセットモードにませす。
 2. DIAL ツマミ(または/)で『18：ECS.CDR』にあわせませす。
 3. を押しませした後、DIAL ツマミをまわして、“01”にあわせませす。
- 
4. /を押しませした後(Rが移動ませす)、DIAL ツマミで“02”にあわせませす。
 5. PTTスイッチを押しませすと、設定は終了ませす。



- “01 01”のように、同じコードを設定することはござせん。
- “01 02”と“02 01”などの場合、順番が違っても、同じコードとみなませす。



この機能は、不慮の事故が発生した際に、捜索活動を補助するための機能です。この機能を使用しても、必ずしも発見に至るとは限りませせん。

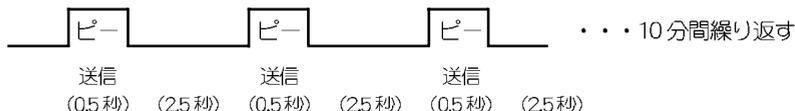
また本機能を使用して生じたトラブルについては、当社は一切の責任を負いませせんので、あらかじめご承知ござさい。

EAI機能 (3) (エマージェンシーオートマチックID)

■ EAI 機能を動作させる

1. **[SET]** を短く押し、次に **[0]** を短く押ししてセットモードにします。
DIAL ツマミ(または **[▲]**/**[▼]**) で『52 : EAI』にあわせませす。
2. **[SET]** を押した後、DIAL ツマミ(または **[▲]**/**[▼]**) で、“EAI 機能動作時の間欠送信時間”をあわせませす。

例：“INT.10M”にあわせた場合は、EAI 機能が動作すると「10分間」ピーブ音を間欠的に送信し続けます。



3. PTTスイッチを押して、確定します。

ディスプレイに“**[EAI]**”が点滅し、EAI 機能が動作します。

以下の機能が動作しているときには、EAI 機能は動作しませんので、EAI 機能を動作させる場合は、これらの機能を“オフ”にしてください。

・スキャン関連 ・スマートサーチ機能 ・ARTS 機能 ・プライオリティ機能

- EAI機能が動作中は、FT-270が自動的に“EAI用周波数”を監視(受信)しますので、特別な操作などは必要ありません。EAI機能が動作中も、“EAI用周波数”以外の周波数で、通常と同じ交信を行うことができます。
- セットモード『10 : CWDID』および『11 : CW WRT』の設定により、EAI送信開始直後および10分経過毎に、CWでコールサインなどのID(CWD)を送出することができます(47ページ参照)。

■ EAI 機能で探索を行う

例：目的の相手のコードが“03 04”の場合。

1. メモリーチャンネル“000”を呼び出します。
メモリーモードで **[CODE]** **[2]** ⇒ **[SET]** **[0]** ⇒ **[SET]** **[0]** ⇒ **[SET]** **[0]** と押すと、直接メモリーチャンネル“200”を呼び出すことができます。
2. 目的の相手局のコード“03 04”にあわせませす。
手順は、**[SET]** **[0]** ⇒ **[CODE]** **[2]** ⇒ DIAL ツマミで“03”にあわせせる ⇒ **[▲]**/**[▼]** (Rが移動) ⇒ DIAL ツマミで“04”にあわせせる。



“03”にあわせせる



“04”にあわせせる

3. **[SET]** を押すと、コードが確定します。
4. PTTスイッチを押して5秒以上送信状態にし、その後受信状態にします。
5. 相手のFT-270が、こちらの信号を受信した場合、自動的にLOWパワーで送信状態(“ピー”音を間欠送信)になりますので、その信号を手がかりに、探索(信号が強くなる方向に向う)を行います。

◎ 送信時は、マイク回路がオフになります。

スマートサーチ機能 —信号が入感する周波数を探して記憶する—

選択したバンド内をサーチし、信号を受信した周波数を一時的なメモリー（スマートメモリー）に書き込みます。スマートメモリーはメモリーチャンネルとは別々31個あり、スマートサーチを開始した周波数よりも高い側/低い側用に各15個ずつ使用されます。また、1個はスマートサーチを開始した周波数です。

1. **VFOモードでスタートさせたい周波数にあわせませす。**
2. **を0.5秒以上押すと、スマートサーチがスタートします。**
スマートサーチが終了すると、スマートサーチをスタートした周波数を表示します。
3. **スマートサーチが終了後、DIAL ツマミ(または  / ) で、スマートメモリーにメモリーした周波数を呼び出すことができます。**
スマートサーチ機能を終了するときは  を押します。
スタートした周波数に戻ります(スマートメモリーの内容は消去されます)。

- スマートメモリーの周波数を、メモリーチャンネルに書き込むことができます(20ページ:メモリーに書き込む)。
- セットモード『38 : S SRCH』の設定により、スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返してサーチするように変更できます。
- 再びスマートサーチを開始するときは、一度VFOモードまたはメモリーモードに戻ってから行ってください。
- スマートメモリーを呼び出し中に電源を切ると、スマートメモリーの内容は消去されます。

■指定した周波数の範囲をスマートサーチする

あらかじめプログラマブルメモリースキャン(PMS)により、下限周波数と上限周波数を登録しておきます(27ページ参照)。指定した周波数の範囲をスマートサーチした場合、専用メモリーは16個(1個はスマートサーチを開始した周波数)になります。

1. **メモリーチャンネルL1~L10/U1~U10のいずれかを呼び出します。**
2. **を押します(“とらへ”が点灯します)。**
3. **を0.5秒以上押すと、スマートサーチがスタートします。**
スマートサーチが終了すると、スマートサーチをスタートした周波数を表示します。
4. **スマートサーチが終了後、DIAL ツマミ(または  / ) で、スマートメモリーにメモリーした周波数を呼び出すことができます。**
スマートサーチ機能を終了するときは  を押します。
スタートしたメモリーチャンネルに戻ります(スマートメモリーの内容は消去されます)。

ARTS機能 —相手局と交信できる範囲にいるかを確認する—

ARTS(アーツ)機能を搭載した相手局と、交信できる状態かどうかを自動的に調べ、交信可能・不可能を“ディスプレイの表示”と“ピーブ音”で知らせる機能です。



交信可能な状態



交信不可能な状態

1. **[M]** を短く押し、次に **[SFT]** を押してセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で、『13 : DCS.COD』にあわせませす。
3. **[M]** を押した後、DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で、相手局と同じ DCS コードを選びませす。
4. **[M]** を押した後、DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で、『2 : AR BEP』にあわせませす。
5. **[M]** を押した後、DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で、ARTS モードを選択しませす(下表参照)。
6. **[M]** を押した後、PTT スイッチを押しませす。
7. **[CODE]** **[2]** を 0.5 秒以上押しと、ARTS 機能が動作しませす。

ARTS 機能を中止する場合は **[M]** を押しませす。

表示	動作
INRANG	交信圏内に入ったとき、1回だけ「ピロロッ」(トーンが上がる)と確認音が鳴り、ディスプレイに“INRANG”を表示しませす(以後交信圏外に出ない限り確認音は鳴りませす)。また、交信圏外に出たとき、1回だけ「ピロロッ」(トーンが下がる)と確認音が鳴り、ディスプレイに“OUTRANG”を表示しませす(以後、再び交信圏内に入らない限り確認音は鳴りませす)。
ALWAYS	交信圏内に入ったとき、1回だけ「ピロロッ」(トーンが上がる)と確認音が鳴りディスプレイに“INRANG”を表示し、その後、交信圏内にいるときは、ARTS 信号を受信するたびに「ポポッ」と確認音が鳴りませす。なお、交信圏外に出たとき、1回だけ「ピロロッ」(トーンが下がる)と確認音が鳴り、ディスプレイに“OUTRANG”を表示しませす。
OFF	交信圏内に入ったとき、ディスプレイに“INRANG”を表示し、また、交信圏外に出たとき、ディスプレイに“OUTRANG”を表示しませす。

- 約 10 分ごとに、モールス信号で自局の ID を送出することができます(47 ページ : CW ID の設定)。
- CW ID は、設定した CW ID の前後に“DE”と“K”が自動的に追加されて送出されませす。

— . . . “CW ID(コールサイン)” — . . .
 ↑ ↑ ↑ ↑
 D E 6文字以内のCW ID K

トーンスケルチ機能とDCS機能 (1)

トーンスケルチを使うと、こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。また、デジタルコードスケルチ(DCS)を使うと、こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

これらの機能を使うと、長時間にわたって特定の局からの呼び出しを待ち受けているときに、他局の交信にわずらわされることなくなくなります。

1. **[MUTE]** を短く押し、次に **[1]** を短く押します。
2. **DIAL** ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で、スケルチの種類を選択します。
3. **PTT** スイッチを押すと確定します。

表示	動作
OFF	トーン送出、スケルチ共にオフにします。
TONE	トーン送出だけを行います(“T” が点灯)。
TSQL	トーンスケルチをオンにします(“T SQ” が点灯)。 リバーストーンをオンにします(“T SQ” が点滅)。
REV TN	通話が無いときにトーン信号が含まれ、通話を始めるとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通話を受信するときに使用します。
DCS	デジタルコードスケルチをオンにします(“DCS” が点灯)。

- トーンスケルチやDCSは、スキャン時やスマートサーチ時にも有効です。トーンスケルチまたはDCSがオンの状態でスキャンすると、一致する周波数のトーンまたはDCSコードが含まれている信号の通話を受信したときのみスキャンが停止します。
- セットモードの『14 : DCS.N/P』により、極性(位相)を反転したDCSコードを送受信することができます。
- セットモードの『43 : SPLIT』により、送受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。
- セットモードの『44 : SQL.TYP』からも、スケルチタイプを設定することができます。

トーンの周波数を設定する

トーンの周波数は、67.0Hz ~ 254.1Hz の50種類から選択できます。

すでに“TONE”、“TSQL”、“REV TN”を設定してある場合は、**[MUTE]** を短く押し、次に **[2]** を押しとセットモード『46 : TN FRQ』のショートカットキーとして動作しますので、この場合は操作1.、操作2. の操作は必要ありません。

1. **[MUTE]** を短く押し、次に **[0]** を押してセットモードにします。
2. **DIAL** ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で、『46 : TN FRQ』にあわせ、**[MUTE]** を押します。
3. **DIAL** ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で希望のトーン周波数(下表参照)を選びます。
4. **[MUTE]** を押した後、**PTT** スイッチを押すと、トーン周波数が確定します。

選択できるトーン周波数(Hz)									
67.0	79.7	94.8	110.9	131.8	156.7	171.3	186.2	203.5	229.1
69.3	82.5	97.4	114.8	136.5	159.8	173.8	189.9	206.5	233.6
71.9	85.4	100.0	118.8	141.3	162.2	177.3	192.8	210.7	241.8
74.4	88.5	103.5	123.0	146.2	165.5	179.9	196.6	218.1	250.3
77.0	91.5	107.2	127.3	151.4	167.9	183.5	199.5	225.7	254.1

- 上記の操作で設定したトーンの周波数は、トーンの送出のみを行う場合にも有効です。
- 工場出荷時(初期値)の状態では88.5Hzに設定されています。

トーンスケルチ機能と DCS 機能 (2)

■ DCS コードを設定する

DCS コードは、023～754 の 104 種類から選択できます。

すでに“TSQ”を設定してある場合は、 を短く押し、次に  を押すとセットモード『13 : DCS.COD』のショートカットキーとして動作しますので、この場合は操作 1.、操作 2. の操作は必要ありません。

1.  を短く押し、次に  を押してセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または  / )で、『13 : DCS.COD』にあわせ、 を押します。
3. DIAL ツマミ(または  / )で希望の DCS コード(下表参照)を選びます。
4.  を押した後、PTT スイッチを押すと、DCS コードが確定します。

選択できる DCS コード														
023	047	073	131	156	223	251	271	332	371	445	465	532	631	723
025	051	074	132	162	225	252	274	343	411	446	466	546	632	731
026	053	114	134	165	226	255	306	346	412	452	503	565	654	732
031	054	115	143	172	243	261	311	351	413	454	506	606	662	734
032	065	116	145	174	244	263	315	356	423	455	516	612	664	743
036	071	122	152	205	245	265	325	364	431	462	523	624	703	754
043	072	125	155	212	246	266	331	365	432	464	526	627	712	—

■ トーン周波数サーチと DCS コードサーチ

— 相手が使用しているトーンスケルチの周波数や DCS コードがわからないとき —

下記の操作により、トーンスケルチの周波数や DCS コードを探して表示することができます。探し出すとサーチが一時停止し、約 5 秒後に再びサーチを開始します。

1.  を短く押し、次に  を短く押します。
2. DIAL ツマミ(または  / )で、トーン周波数を探す場合は“TSQ”，DCS コードを探す場合は“DCS”を選び、 を押します。
3.  を短く押し、次に  を短く押します。
4. トーンスケルチの周波数または、DCS コードが表示された状態にします。
5.  または  を 0.5 秒以上押すと、サーチを開始します。

○  を 0.5 秒以上押すと、サーチを始める前の状態に戻ります。

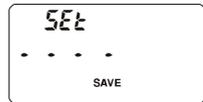
必要に応じて使う機能

パスワード機能

4桁のパスワードを設定することにより、正しいパスワードを入力しないと、電源をオンにすることができませんので、第三者の無断使用などを防ぐことができます。

■パスワードを設定する

1. **[SET]** を短く押し、次に **[0]** を押してセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で『31 : PSWD W』にあわせて **[GL]** を押します。
3. **[SET]** を押した後、DIAL ツマミで、パスワードの1桁目を選びます(0 ~ 9, A ~ F から選択できます)。
4. **[▲]** を押して(次の桁に移る)、DIAL ツマミでパスワードを選びます。
5. 操作3を繰り返して、4桁のパスワードを入力します。
6. PTTスイッチを押すと確定します。



■パスワード機能を動作させる

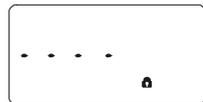
1. **[SET]** を短く押し、次に **[0]** を押してセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で『30 : PSWD』にあわせませす。
3. **[SET]** を押した後、DIAL ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で、“ON”にあわせませす。
4. PTTスイッチを押すと確定します。



○ パスワード機能を解除するには、再び上記の操作を行い、操作2. で“OFF”にあわせてください。

■パスワード機能動作時の電源の入れかた

1. VOL ツマミを右にまわします。
パスワード入力画面が表示されます。
2. 正しい4桁のパスワードを入力すると、電源が“オン”になります。
間違ったパスワードを入力した場合、自動的に電源が“オフ”になります。



○ パスワードの入力は、数字は **[0]** ~ **[9]**、アルファベットは、A ⇒ **[▲]**、B ⇒ **[▼]**、C ⇒ **[HOME]**、D ⇒ **[GL]**、E ⇒ **[SKIP]**、F ⇒ **[VFO]** を直接押すことにより入力することができます。

注 意

パスワードを忘れた場合は、オールリセットを行うことにより、電源を入れることができます。ただし、オールリセットを行うと、メモリーされた内容や、各種の設定値など、全ての情報がリセット(初期化)されてしまいます。

パスワードは忘れないように、紙などに控えておくようにしてください。

プライオリティ機能を使う

約5秒間に一度、指定したメモリーチャンネルに信号があるかを確認し、信号がある場合は、指定したメモリーチャンネルの信号を受信します。

例：“145.420MHz”を受信しながら、メモリーチャンネル“3”を確認の場合



■ダイヤルプライオリティ(VFOモード ⇄ メモリーチャンネル)

VFOモードで受信中に、希望のメモリーチャンネルを確認します。

1. 確認したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. VFOモードで、常時受信したい周波数にあわせます。
3. **[G]**を短く押し、次に**[VFO]**を短く押しと、ダイヤルプライオリティを開始します。
再度**[G]**を短く押し、次に**[VFO]**を短く押しと、プライオリティ機能を中止することができます。

■メモリープライオリティ(メモリーチャンネル ⇄ メモリーチャンネル1※)

希望のメモリーチャンネルを受信中に、メモリーチャンネル“1”※を確認します。

1. 常時受信したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **[G]**を短く押し、次に**[VFO]**を短く押しと、メモリープライオリティを開始します。
再度**[G]**を短く押し、次に**[VFO]**を短く押しと、プライオリティ機能を中止することができます。
※メモリーバンクを使用している場合は、メモリーバンク内の一番小さいチャンネルになります。

■HOMEプライオリティ(HOMEチャンネル ⇄ メモリーチャンネル)

ホームチャンネルを受信中に、希望のメモリーチャンネルを確認します。

1. 確認したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. ホームチャンネル(**[G]** ⇄ **[HOME]**)にします。
3. **[G]**を短く押し、次に**[VFO]**を短く押しと、HOMEプライオリティを開始します。
再度**[G]**を短く押し、次に**[VFO]**を短く押しと、プライオリティ機能を中止することができます。

■プライオリティリバート

プライオリティ受信時に、PTTスイッチを押すと、希望のメモリーチャンネルで優先的に送信することができます。

1. **[G]**を短く押し、次に**[SET]**を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または**[▲]**/**[▼]**)で『36 : PRI.RVT』にあわせます。
3. **[G]**を押した後、DIAL ツマミ(または**[▲]**/**[▼]**)で、“ON”にあわせます(“OFF”でプライオリティリバート解除)。
4. PTTスイッチを押して、確定させます。

この状態で、上記の3種類のプライオリティ機能を動作させると、プライオリティリバートが動作します。

DTMF 機能を使う

DTMFとは“Dual Tone Multi Frequencies”の略語で、プッシュホーンの電話をかけたときに受話音から聞える音「ピッポツパツ」です。

WiRESをアクセスするためのDTMFコードやフーンパッチから公衆回線に接続する時に使用する電話番号などを、最大16桁のDTMF信号で登録することができます(合計9チャンネル)。

■ DTMF コードの登録

1. **[MNF]**を短く押し、次に**[0]**を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または**[MNF]**/**[MNF]**)で『17:DT WRT』にあわせて**[MNF]**を押します。
3. DIAL ツマミをまわして、メモリーしたいDTMFチャンネル(d 1~d 9)を選び、**[MNF]**を押します。
4. DIAL ツマミで、希望のDTMFコード(0~9, A~D, E(*), F(#))を選びます。
5. **[MNF]**を押します(次の桁に移る)。
6. 操作3. と4. を繰り返して、DTMFコードを入力(最大16桁)していきます。
7. **[MNF]**を0.5秒以上押します。
8. PTTスイッチを押すと登録終了です。

- コード入力中に**[MNF]**を押すと、一桁前のコードを入力し直すことができます。
- コード入力中に**[HOME]**を押すと、カーソル以降(カーソルのある桁を含む)のコードを消去できます。
- 「*」は“E”，「#」は“F”とディスプレイに表示されます。
- 上記の操作6. が終わった時、モニタースイッチを押すと、登録したDTMFコードを実際に鳴らして、確認することができます。

■ DTMF コードの送出

送信中にキーボードを押すことにより、DTMF信号(0~9, A~D, *, #)を送出することができます。

また、下記の操作を行うことにより、上記“DTMFコードの登録”で登録したDTMFコードを送出することができます。

1. **[MNF]**を押して、続けて**[DTMF]**を押します。
ディスプレイに約1秒間“MEM”と表示されます。

- DTMFの送出をやめる場合は、再度**[MNF]**に続けて**[DTMF]**を押してください(ディスプレイに約2秒間“CODE”と表示されます)。

2. 送信しながら、送出したいDTMFコードが登録されたチャンネル(キーボードの**[DTMF]** **[1]**~**[9]**)を押すと、DTMFコードが送出されます。

- DTMFコード送信中は、PTTスイッチを離しても、送信状態を保持します。
- セットモード『15:DT DLY』により、キーを押してからDTMFコードが送出されるまでの時間を変えることができます。
- セットモード『16:DT SPD』により、DTMFコードの送出スピードを変えることができます。

スキヤンスキップ設定

スキヤンしたくないメモリーチャンネルを指定することができます。

1. スキヤンしたくないメモリーチャンネルを呼び出します。
2.  を短く押し、次に  を短く押してセットモードにします。
3. DIAL ツマミ(または  / ) で『39 : SCN MD』にあわせませす。
4.  を押して、DIAL ツマミ(または  / ) で、“MEM” を選びませす。
5.  を押して、DIAL ツマミ(または  / ) で、『42 : SKIP』にあわせませす。
6.  を押して、DIAL ツマミ(または  / ) で、“SKIP” を選びませす。
7. PTT スイッチを押して確定させませす。

スキヤンしたくないメモリーチャンネルには、メモリーチャンネル番号の左に“▶”が表示させませす。

スキヤンしたくないメモリーが複数ある場合は、上記の操作を繰り返してさせませす。



8. メモリーモード時に、 または  を 0.5 以上押すと、スキヤンしたくないメモリーを飛ばしてスキヤンを開始させませす。

スキヤンを終了したいときは  または  を押させませす。

- スキップ指定を解除するには、再度上記の操作を行い、操作 6. で“OFF”を選択してさせませす。
- メモリーチャンネル“L1～L50”，“U1～U50”には、スキヤンスキップを指定することはできません。

指定メモリースキヤン設定

メモリーチャンネルの中からスキヤンしたいメモリーを指定しておくと、指定したメモリーチャンネルのみをスキヤンさせませす。

1. スキヤンしたいメモリーチャンネルを呼び出させませす。
2.  を短く押し、次に  を短く押してセットモードにさせませす。
3. DIAL ツマミ(または  / ) で『39 : SCN MD』にあわせませす。
4.  を押して、DIAL ツマミ(または  / ) で、“ONLY” を選びませす。
5.  を押して、DIAL ツマミ(または  / ) で、『42 : SKIP』にあわせませす。
6.  を押して、DIAL ツマミ(または  / ) で、“ONLY” を選びませす。
7.  を押させませす。
8. PTT スイッチを押して確定させませす。

スキヤンしたいメモリーチャンネルには、メモリーチャンネル番号の左に“▶”の点滅が表示させませす。

スキヤンしたいメモリーが複数ある場合は、上記の操作を繰り返してさせませす。



9. メモリーモード時に、 または  を 0.5 以上押すと、スキヤンしたいメモリーチャンネルだけをスキヤンさせませす。

スキヤンを終了したいときは  または  を押させませす。

- 指定を解除するには、再度上記の操作を行い、操作 6. で“OFF”を選択してさせませす。
- メモリーチャンネル“L1～L50”，“U1～U50”に指定することはできません。

RF スケルチ機能を使う

設定値以上の信号を受信した場合のみ、音声を出力させる機能です。

1.  を短く押し、次に  を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または  / ) で『34 : RF SQL』にあわせて  を押します。
3. DIAL ツマミ(または  / ) で、設定値を選びます(下表参照)。
4. PTT スイッチを押して確定します。
5. SQL ツマミを右側にまわし切ると、RF スケルチ機能を動作します。

表示	動作状態
S-1	Sメーターが“1”未満の信号の音声は出力しません。
S-2	Sメーターが“2”未満の信号の音声は出力しません。
S-3	Sメーターが“3”未満の信号の音声は出力しません。
S-4	Sメーターが“4”未満の信号の音声は出力しません。
S-5	Sメーターが“5”未満の信号の音声は出力しません。
S-6	Sメーターが“6”未満の信号の音声は出力しません。
S-8	Sメーターが“8”未満の信号の音声は出力しません。
S-FULL	Sメーターが“フルスケール”以外の信号の音声は出力しません。
OFF	RF スケルチ機能が“OFF”になります。

自動的に電源をオフする(APO)

何も操作をしないと、自動的に電源が“OFF”になる時間を設定することができます。

1.  を短く押し、次に  を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または  / ) で『1 : APO』にあわせて  を押します。
3. DIAL ツマミ(または  / ) で、電源がオフになるまでの時間を選びます。
(30分単位でOFF ~ 12時間まで)。
4. PTT スイッチを押して確定します。

○ 電源が切れる約3分前になると、ディスプレイの“”表示が点滅すると共に、ピープ音が鳴ります。

連続送信時間を制限する(TOT)

連続送信した際に、自動的に送信を中止するまでの時間を設定することができます。

1.  を短く押し、次に  を短く押ししてセットモードにします。
DIAL ツマミ(または  / ) で『47 : TOT』にあわせて  を押します。
2. DIAL ツマミ(または  / ) で、送信を中止するまでの時間を選びます。
(1分単位でOFF ~ 30分まで)。
3. PTT スイッチを押して確定します。

○ 送信を中止する約10秒前になると「ピポピポピポ」と警告音が鳴ります。

受信中に誤って送信しないようにする (BCLO)

信号を受信中に、誤って送信しないようにすることができます (ビジーチャンネルロックアウト機能)。

1. **[M]** を短く押し、次に **[0]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で『5 : BCLO』にあわせて **[M]** を押します。
3. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で、“ON” にあわせませす。
4. PTT スイッチを押して確定します。

● 信号を受信中に PTT スイッチを押すと、ディスプレイに “bclo” が表示され、送信することができません。

照明の点灯条件を変更する

ディスプレイとキーの照明が点灯する条件を、変更することができます。

1. **[M]** を短く押し、次に **[0]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で『25 : LAMP』にあわせて **[M]** を押します。
3. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で、希望の点灯条件にあわせませす。
4. PTT スイッチを押して確定します。

表示	点灯条件
KEY	DIAL ツマミまたはキーを押すと、約5秒間点灯します。
CONT	ランプが点灯しつづけます。
OFF	ランプが消灯します。

ベル機能を使う

相手局からの呼び出しを、ベル音と “♥” の表示で知らせることができます。

1. **[M]** を短く押し、次に **[0]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で『7 : BELL』にあわせて **[M]** を押します。
3. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で、ベル音の鳴る回数をあわせませす。
(OFF, 1 T (回), 3 T (回), 5 T (回), 8 T (回), CONT (連続) から選択できます)。
4. PTT スイッチを押して確定します。

- ベル機能を使用するためには、トーンスケルチまたはDCSをオンにしてください。
- ベル機能は、レピータでは使用することができません。
- ベル機能が動作中は、ディスプレイに “♥” が点灯します。また、相手局からの信号を受信したときには “♥” の表示が点滅します。

電池(電源)電圧を表示する

電池の電圧を表示します。オプションのシガープラグ付外部電源アダプター (E-DC-5B) や、外部電源ケーブル (E-DC-6) を接続しているときは、電源電圧を表示します。

1. **[M]** を短く押し、次に **[0]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ (または **[▲]** / **[▼]**) で『12 : DC VLT』にあわせて **[M]** を押します。
ディスプレイに、電圧が表示されます。なお、電圧を表示したまま、送信することでもできますので、送信時の電圧を確認することができます。
3. 電圧の表示を消したいときは、**[M]** を押して、続けて PTT スイッチを押します。



操作音が鳴らないようにする

キーを押したときや、信号を受信してスキャンが停止したときなどに出るビーブ音を、条件にあわせて鳴らないようにすることができます。

1. **[F]** を短く押し、次に **[SET]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で『6 : BEEP』にあわせて **[F]** を押します。
3. DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で、希望のビーブ動作を選びます。

表示	動作
KEY+SC	キー類を押したときビーブ音が鳴ります。 また、信号を受信してスキャンが停止したときもビーブ音が鳴ります。
KEY	キー類を押したときだけビーブ音が鳴ります。 信号を受信してスキャンが停止したときは、ビーブ音は鳴りません。
OFF	ビーブ音は鳴らなくなります

4. PTT スイッチを押して確定します。

マニュアルでステップを切り替える

自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り換わる“AUTO (オートステップ)”に設定されていますが、マニュアルで周波数ステップを切り換えることができます。

1. **[F]** を短く押し、次に **[SET]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で『45 : STEP』にあわせて **[F]** を押します。
3. DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で、希望のステップを選びます。

(AUTO/5/10/12.5/15/20/25/50/100kHz から選択できます)。

通常は AUTO に設定しておくことをおすすめします。

4. PTT スイッチを押して確定します。

各周波数帯に、個別に設定することができます。

プログラマブルキー機能

本機は工場出荷時、**[F]** に続けて **[P1]** または **[P2]** を押したとき、セットモードの動作 (**[P1]** には『37 : RXSAVE』、**[P2]** には『25 : LAMP』が設定されています)を行うように設定されていますが、この設定を、別の項目に変更することができます。なお、**[P1]** または **[P2]** に割り当てたセットモードは、呼び出し時にセットモード番号が点滅します。

1. **[F]** を短く押し、次に **[SET]** を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または **[MHz]** / **[MHz]**) で、登録したい項目を選びます。

次の項目を設定することはできません。

11 : CW WRT, 17 : DT WRT, 29 : NM WRT, 31 : PSWD W

3. **[P1]** または **[P2]** を 0.5 秒以上押し、PTT スイッチを押すと、確定は完了です。

CW IDの設定

CW IDを設定すると、ARTS/EAI/エマージェンシー機能動作時に、自分のコールサインなどを自動的に送出することができます。

■ CW IDの登録

1. **[RECALL]**を短く押し、次に**[SET 0]**を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または**[MHz / MHz]**)で『11 : CW WRT』にあわせて**[RECALL]**を押します。
3. **[RECALL]**を押します。
4. DIAL ツマミで希望の英数字(0~9, A~Z)を選びます。
5. **[MHz]**を押すと、次の桁に移ります。
6. 操作4.~5.を繰り返し、IDを入力します(最大6文字)。
6文字入力したときは**[MHz]**または**[RECALL]**を押すと、IDが決定されます。
7. **[RECALL]**を0.5秒以上押すと、IDが設定されます。
8. PTTスイッチを押して終了です。

- **[MHz]**を押すとカーソルの位置を一文字送ることができます。
- **[MHz]**を押すとカーソルの位置を一文字前に戻すことができます。
- **[HOME RECALL]**を押すと、点滅している文字とその文字以降を削除することができます。
- 上記の操作6. が終わった時、モニタースイッチを押すと、設定したIDを実際に鳴らして、確認することができます。

■ CW IDの設定

1. **[RECALL]**を短く押し、次に**[SET 0]**を短く押ししてセットモードにします。
2. DIAL ツマミ(または**[MHz / MHz]**)で『10 : CWID』にあわせて**[RECALL]**を押します。
3. ダイアルツマミをまわして“ON”を選びます(“OFF”にするとCW IDは送出されなくなります)。
4. PTTスイッチを押して終了です。

- CW IDを送出するにはF2Aの免許が必要になり、第三級アマチュア無線技士以上の資格が必要になります。第四級アマチュア無線技士の方は“セットモード“10 CWID”の設定は“OFF”のままでご使用ください。

メモリーオンリーモード

メモリーチャンネルにメモリーした周波数だけで運用することができます。

1. “モニタースイッチ”を押しながら電源を“オン”にします。
2. DIAL ツマミをまわして“F5 M-ONLY”にあわせませす。
3. **[RECALL]**を押すと、自動的に“電源オフ”⇒“オン”の動作を行い、メモリーオンリーモードが動作します。
上記と同じ操作を繰り返すと、メモリーオンリーモードを解除できます。

- **[VFO]**を0.5秒以上押すとメモリーバンクリンクスキャンが動作します(26ページ)。
- **[RECALL]**を押すと、送信出力を変更することができます(14ページ)。
- メモリーオンリーモードにすると、下記の操作が動作しなくなります。
 - ・メモリーの名前表示の切り替え
 - ・メモリーチューン操作
 - ・ARTS機能の操作
 - ・ホームチャンネルの呼び出し
 - ・盗聴器発見機能サーチ
 - ・プログラムブルメモリースキャン(FMS)の操作
 - ・スマートサーチメモリーの操作
 - ・メモリーバンクへの登録操作
 - ・セットモードの呼び出し

セットモード番号順一覧表

本機に備えられた“機能”または“動作”の設定を行うことができます。

機 能	ディスプレイ表示	初期値	ページ
オートパワーオフ(APO)の設定	1 APO	OFF	51
ARTSモードの設定	2 AR BEP	INRANGE	51
ARTSチェック間隔の設定	3 AR INT	25 SEC	51
オートマッチレピータシフト(AFS)の設定	4 ARS	ON	51
ビジーチャンネルロックアウトの選択	5 BCLO	OFF	52
ビーブ音が鳴る条件設定	6 BEEP	KEY+SC	52
ベル呼び出し音の設定	7 BELL	OFF	52
BUSY LEDの“ON/OFF”	8 BSY.LED	ON	52
クロックシフトの“ON/OFF”	9 CLK.SFT	OFF	52
CWIDの設定	10 CWID	OFF	52
CWIDの書き込み	11 CW WRT	—	52
電源電圧表示	12 DC VLT	—	52
DCSコードの設定	13 DCS.COD	023	52
DCSコードの極性設定	14 DCS.N/R	T/RX N	53
DTMF 送出ディレータイム設定	15 DT DLY	450 MS	53
DTMF 送出スピード設定	16 DT SPD	50 MS	53
DTMF チャンネル/コードの設定	17 DT WRT	—	53
個別トナド（受信用）の設定	18 ECS.CDR	R05 47	53
個別トナド（送信用）の設定	19 ECS.CDT	T05 47	53
バンドエッジ通過時のビーブ音設定	20 EDG.BEP	OFF	49
エマージェンシーモードの設定	21 EMG S	B+L	49
インターネットモードの設定	22 I NET	OFF	49
インターネットモードで使用するコード設定	23 INT CD	CODE 1	53
インターネットモードで使用するDTMFメモリの設定	24 INT MR	d 1	54
ディスプレイ、キーボード照明モードの設定	25 LAMP	KEY	54
PTT(P)/KEY(K)/DIAL(D)ロックの選択	26 LOCK	K+D	54
モニタースイッチ/T-CALLスイッチ変更設定	27 MIT-CL	MONI	54
メモリの表示切り替え選択	28 NAME	FREQ	54
メモリの名前入力	29 NM WRT	—	54
パスワード機能の“ON/OFF”	30 PSWD	OFF	54
パスワードの入力	31 PSWD W	—	54
スキャンストップモードの設定	32 RESUME	TIME	55
[HOME]キーを[REV]キーにするかの選択	33 REV/HM	HOME	55
RFスケルチの設定	34 RF SQL	OFF	55
レピータシフト方向の設定	35 RPT.MOD	OFF	55
プライオリティチャンネルリバートの設定	36 PRI.RVT	OFF	55
受信セーブ時間の設定	37 RXSAVE	200 MS	55
スマートサーチ動作モードの設定	38 S SRCH	SINGLE	55
メモリスキャンのスキャン動作選択	39 SCN MD	MEM	56
スキャンストップ時のランプ点灯	40 SCN.LMP	ON	56
レピータシフト幅の設定	41 SHIFT	OM-Hz	56
スキップメモリチャンネルの選択	42 SKIP	OFF	56
送受信個別のスケルチタイプの選択	43 SPLIT	OFF	56
トーンスケルチ/DCSの選択	44 SQL.TYP	OFF	56
周波数ステップの設定	45 STEP	AUTO	57
トーン周波数の設定	46 TN FRQ	88.5 Hz	57
タイムアウトタイマー(TOT)の設定	47 TOT	OFF	57
TX LEDの“ON/OFF”	48 TX LED	ON	57
送信セーブ設定	49 TXSAVE	OFF	57
VFOスプリットの設定	50 VFO.SPL	VSP.OFF	57
WIDE/NARROWの切り替え設定	51 WID.NAR	WIDE	57
EAI機能の“ON/OFF”(間欠送信時間)設定	52 EAI	OFF	57
ANI機能の“ON/OFF”※	53 ANI	OFF	58
ANIコード(文字)の入力設定※	54 ANI.WRT	—	58
ページャー機能の“ON/OFF”設定※	55 PAGER	OFF	58
ページャーコードの設定※	56 PAG.COD	—	58
ページャーアンサーバックの“ON/OFF”※	57 PAG.ABK	OFF	58

※：オプションのFTD-7を搭載するとセットモードが追加されます。

必要に応じて使う機能

セットモード項目別一覧表

SQL/トーンスケルチ/DCS/DTMFに関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
ベル呼び出し音の設定	7 BELL	OFF/1/3/5/8/CCNT
DCS コードの設定	13 DCS.COD	023 ~ 754 (104種類)
DCS コードの極性設定	14 DCS.NR	T/RX N, RX R, TX R, T/RX R
DTMF 送出ディレイタイム設定	15 DT.DLY	50/100/250/450/750/1000 (MS)
DTMF 送出スピード設定	16 DT.SPD	50/100 (MS)
DTMF チャンネル / コードの設定	17 DT.WRT	—
送受信個別のスケルチタイプの選択	43 SPLIT	ON/OFF
トーンスケルチ / DCS の選択	44 SQL.TYP	OFF/TONE/TSQL/REV.TMDCS
周波数ステップの設定	45 STEP	AUTO/5.0/10.0/12.5/15.0/20.0/25.0/50.0/100 (kHz)
トーン周波数の設定	46 TN.FREQ	67 ~ 885 ~ 254.1 Hz (50トーン)
インターネットモード / レピーターに関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
オートマッチングレピータシフト (ARS) の設定	4 ARS	ARS.ON/ARS.OFF
インターネットモードの設定	22 INET	OFF/CCD/MEM
インターネットモードで使用するコード設定	23 INT.CD	0 ~ 1 ~ 9
インターネットモードで使用するDTMFメモリーの設定	24 INT.MR	d-1 ~ d-9
レピータシフト方向の設定	35 RPT.MOD	OFF / - / +
レピータシフト幅の設定	41 SHIFT	0 ~ 99.95MHz
メモリーに関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
メモリーの表示切り替え選択	28 NAME	FREQ/ALPHA
メモリーの名前入力	29 NM.WRT	—
スキャンに関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
スキャンストップモードの選択	32 RESUME	TIME/BUSY/HOLD
プライオリティチャンネルリパートの設定	36 PRI.RVT	ON/OFF
スマートサーチ動作モードの設定	38 S.SRCH	SINGLE/CCNT
メモリスキャンのスキャン動作選択	39 SCN.MD	MEM/ONLY
スキャンストップ時のランプ点灯	40 SCNL.MP	ON/OFF
スキップメモリーチャンネルの選択	42 SKIP	OFF/SKIP/ONLY
SAVEに関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
オートパワーオフ (APO) の設定	1 APO	OFF/0.5H ~ 12.0H
受信セーブ時間の設定	37 RX.SAVE	OFF/200 MS/300MS/500MS/1SEC/2SEC
タイムアウトタイマー (TOT) の設定	47 TOT	OFF/1 ~ 30MIN
送信セーブ設定	49 TX.SAVE	ON/OFF
ページャー / EAI / ARTS に関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
ARTS モードの設定	2 AR.BEP	INRANG/ALWAYS/OFF
ARTS チェック間隔の設定	3 AR.INT	25/15 (SEC)
送出する CWD の設定	10 CWD	ON/OFF
送出する CWD の書き込み	11 CW.WRT	—
個別コード (受信用) の設定	18 ECSCDR	R05 47
個別コード (送信用) の設定	19 ECSCDT	T05 47
EAI 機能の "ON/OFF" (簡欠送信時間) 設定	52 EAI	OFF/1 ~ 10/15/20/30/40/50 (M)
AN 機能の "ON/OFF" ※	53 AN	ON/OFF
AN コード (文字) の入力設定※	54 AN.WRT	—
ページャー機能の "ON/OFF" 設定※	55 PAGER	ON/OFF
ページャーコードの設定※	56 PAG.COD	—
ページャーアンサーバックの "ON/OFF" ※	57 PAG.ABK	ON/OFF
照明に関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
BUSY LED の "ON/OFF"	8 BSY.LED	ON/OFF
ディスプレイ、キーパッド照明モードの設定	25 LAMP	KEY/CONT/OFF
TX LED の "ON/OFF"	48 TX.LED	ON/OFF
キー / スイッチに関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
ビープ音が鳴る条件設定	6 BEEP	KEY+SC/KEY/OFF
PTT (P) / KEY (K) / DIAL (D) ロックの選択	26 LOCK	K+D/PTT/P+K/P+D/ALL/KEY/DIAL
モニタースイッチ / T-CALL スイッチ変更設定	27 M/T-CL	MON/T-CALL
[HOME] キーを [REV] キーにするかの選択	33 REV/HM	<HOME>/<REV>
受信に関する設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
バンドエッジ角周時のビープ音設定	20 EDGBEP	ON/OFF
RF スケルチの設定	34 RF.SQL	OFF / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 8 / FULL
VFO モード時の周波数選択範囲の設定	54 VFO.BND	ALL/BND
その他の設定項目	セットモード番号 / 表示	選択できる項目
ビジーチャンネルロックアウトの選択	5 BLO	ON/OFF
クロックシフトの "ON/OFF"	9 CLK.SFT	ON/OFF
電源電圧表示	12 DC.VLT	—
エマージェンシーモードの設定	21 EMG.S	BEP/LMP/B-HL/CWT/C-HB/C-HL/ALL/OFF
パスワード機能の "ON/OFF"	30 PSWD	ON/OFF
パスワードの入力	31 PSWD.W	—
VFO スプリットの設定	50 VFO.SPL	VSP/OFF
WIDE/NARROW の切り替え設定	51 WID.NAR	WIDE/NARROW

※ : オプションのFTD-7を搭載するとセットモードが追加されます。

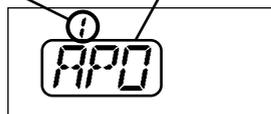
セットモードの動作一覧(1)

操作のしかた

1. **[SET]** を短く押し、続けて **[0]** を押します。
2. DIAL ツマミをまわして設定したい“機能”を選択します。
3. **[SET]** を押します。
4. DIAL ツマミ(または **[▲]** / **[▼]**) で、“設定値”を選択します。
5. (セットモード 3, 13, 46 は **[SET]** を押します。)
6. 送信(PTT)スイッチを押して確定し終了です。

セットモード番号

機能



セットモードリセット

セットモードの設定を、工場出荷時の状態に戻すことができます。

ただし、次の項目はオールリセット(15ページ)をしない限り、リセットされません。

9 : CLK.SFT 13 : DCS.COD 28 : NAME 29 : NM WRT 33 : REV/HM
35 : RPT.MOD 41 : SHIFT 42 : SKIP 44 : SQL.TYP 45 : STEP 46 : TN FRQ
51 : WD.NAR

1. “モニタースイッチ”を押しながら電源をオンにします。
ディスプレイに“F1 SETRST”が表示されたら、スイッチから指を離してください。
2. DIAL ツマミをまわして“F1 SETRST”を表示させます。
3. **[SET]** を押すと、自動的に“電源オフ” ➡ “電源オン”の動作を行い、セットモードリセットは終了します。
セットモードリセット操作を中止したい場合は、送信(PTT)スイッチを押してください。

1 APO

オートパワーオフ(APO)の設定

設定項目 : OFF/0.5H ~ 12.0H

工場出荷時 : OFF

解説 : APO 時間(一定時間何も操作しないと、自動的に電源をオフにする時間)を設定します。APO 時間が設定されているときは、ディスプレイに“0”が表示されます。

2 AR BEP

ARTS モードの設定

設定項目 : INRANG/ALWAYS/OFF

工場出荷時 : INRANG

解説 :

OFF : ARTS 動作時のピーブ音をオフにします。

INRANG : はじめて交信可能範囲内にあることが確認されたときおよび、はじめて交信可能範囲外になったときだけ、ピーブ音を鳴らします。

ALWAYS : はじめて交信可能範囲内にあることが確認されたときおよび、はじめて交信可能範囲外になったときに、ピーブ音を鳴らします。さらに、ARTS 信号を受信したときにも、ピーブ音が鳴ります。

3 AR INT

ARTS チェック間隔の設定

設定項目 : 25 SEC/15 SEC

工場出荷時 : 25 SEC

解説 : ARTS 動作時の、チェック間隔を設定します。

4 ARS

オートマチックレピータシフト(ARS)の設定

設定項目 : ARS.ON/ARS.OFF

工場出荷時 : ARS.ON

解説 : ARS(レピータの周波数に合わせるだけで自動的にレピータを使える状態になる)機能の動作を ON/OFF することができます。

セットモードの動作一覧(2)

5 BCLO

ビジーチャンネルロックアウトの選択

設定項目：BCL.OFF/BCL.ON

工場出荷時：BCL.OFF

解説：ビジーチャンネルロックアウト (BCLO：すでに使われている周波数での送信禁止)をON/OFFすることができます。

6 BEEP

ビーブ音が鳴る条件設定

設定項目：KEY+SC/KEY/OFF

工場出荷時：KEY+SC

解説：

KEY+SC：キー類を押したとき、また、信号を受信してスキャンが停止したときにビーブ音が鳴ります。

KEY：キー類を押したときにビーブ音が鳴ります。

OFF：ビーブ音は鳴らなくなります。

7 BELL

ベル呼び出し音の設定

設定項目：OFF/1/3/5/8/CONT(連続)

工場出荷時：OFF

解説：ベル機能動作時の、呼び出し音が鳴る回数を設定します。

設定が“OFF”以外に設定されているときは“♥”が表示されます。

8 BSY.LED

BUSY LEDの“ON/OFF”

設定項目：LED.ON/LED.OFF

工場出荷時：LED.ON

解説：受信時に点灯するBUSYインジケータ(BUSY LED)をON/OFFすることができます。

9 CLK.SFT

クロックシフトの“ON/OFF”

設定項目：SFT.ON/SFT.OFF

工場出荷時：SFT.OFF

解説：マイコンのクロックを高調波による内部スプリアスとして受信された時は“ON”にします。

通常は“OFF”で使用してください。

10 CWID

CWIDの設定

設定項目：TX ON/TX OFF

工場出荷時：TX OFF

解説：ARTS/EAI/エマージェンシー機能などを使用しているときに動作する、CWによるID送出を設定します。

CWIDの設定方法は47ページの“CWIDの設定”を参照してください。

CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2Aの電波型式の免許が必要です。

11 CW WRT

CWIDの書き込み

設定項目：英数字(最大6桁)

工場出荷時：未設定

解説：ARTS/EAI/エマージェンシー機能などを使用しているときに動作する、CWによるIDを設定します。

CWIDの設定方法は47ページの“CWIDの設定”を参照してください。

12 DC VLT

電源電圧表示

解説：ディスプレイに電源電圧を表示します。

13 DCS.COD

DCSコードの設定

設定項目：023～754(104種類)

工場出荷時：023

解説：104種類の中から選択することができます。

選択できるDCSコード								
023	071	143	225	266	356	452	532	703
025	072	145	226	271	364	454	546	712
026	073	152	243	274	365	455	565	723
031	074	155	244	306	371	462	606	731
032	114	156	245	311	411	464	612	732
036	115	162	246	315	412	465	624	734
043	116	165	251	325	413	466	627	743
047	122	172	252	331	423	503	631	754
051	125	174	255	332	431	506	632	—
053	131	205	261	343	432	516	654	—
054	132	212	263	346	445	523	662	—
065	134	223	265	351	446	526	664	—

セットモードの動作一覧(3)

14 DCS.N/R

DCS コードの極性設定

設定項目：T/RX N, RX R, TX R, T/RX R

工場出荷時：T/RX N

解説：常に“T/RX N”で使用してください。

15 DT DLY

DTMF 送出ディレイタイム設定

設定項目：50MS/100MS/250MS/450MS/
750MS/1000MS

工場出荷時：450MS

解説：キーを押してから、DTMF コードが送出されるまでの時間を設定します。

16 DT SPD

DTMF 送出スピード設定

設定項目：50MS/100MS

工場出荷時：50MS

解説：

50MS：1秒間に10文字の割合でDTMF
コードが送出されます。

100MS：1秒間に5文字の割合でDTMF
コードが送出されます。

17 DT WRT

DTMF チャンネル/コードの設定

解説：DTMF コードを、希望のチャンネルに
設定することができます。

設定方法は42ページを参照してください。

18 ECS.CDR

個別コード(受信)の設定

設定項目：01～50

工場出荷時：02 47

解説：ページャー機能やEAI機能を使用する
際の個別コードを設定します。

19 ECS.CDT

個別コード(送信)の設定

設定項目：01～50

工場出荷時：02 47

解説：ページャー機能やEAI機能を使用する
際、呼び出したい相手局の個別コードを設定
します。

20 EDG.BEP

バンドエッジ通過時のビーブ音設定

設定項目：BEP.ON/BEP.OFF

工場出荷時：BEP.OFF

解説：DIAL ツマミで周波数選択時およびメモ
リースキャン時に、バンドエッジやメモリー
チャンネル1を通過したときのビーブ音を
ON/OFF することができます。

21 EMG S

エマーゼンシーモードの設定

設定項目：EMG.B+L/EMG.CWT/EMG.C+B/
EMG.C+L/EMG.ALL/OFF

工場出荷時：EMGB+L

解説：

EMGB+L：ビーブを鳴らしながら、LCDと
キーボードが点滅します。

EMG.CWT：1分毎にCMDが送出されます。
EMG.C+B：1分毎にCMDが送出され、ビー
ブ音が鳴ります。

EMG.C+L：1分毎にCMDが送出され、LCD
とキーボードが点滅します。

EMG.ALL：ビーブ音が鳴り、LCDとキー
ボードが点滅し、1分毎にCMD
が送出されます。

OFF：エマーゼンシー機能が動作し
なくなります。

22 I NET

インターネットモードの設定

設定項目：INT.OFF/INT.COD/INT.MEM

工場出荷時：INT.OFF

解説：

INT.COD：WIFESのSRG方式を使用する
ときに選択します。

INT.MEM：WIFESのFRG方式や他のVoPを
使用するときに選択します。

INT.OFF：インターネットモードをオフに
します。

23 INT CD

インターネットモードで使用するコード設定

設定項目：CODE 0～CODE 9

工場出荷時：CODE 1

解説：インターネットモードで、送信開始時
に出力されるDTMFコードを1コードだけ指
定することができます。

セットモードの動作一覧(4)

24 INT MR

インターネットモードで使用するDTMFメモリーの設定

解説：WiRESのFRG方式で使用するDTMFコードを設定したDTMFメモリーチャンネルを指定します。PTTを押しながらを押すと、ここで指定したDTMFメモリーチャンネルに設定されているDTMFコードが送出されます。

25 LAMP

ディスプレイ、キーボード照明モードの設定

設定項目：KEY/CONT/OFF

工場出荷時：KEY

解説：

KEY： DIAL ツマミまたはキーを押すと、約5秒間点灯します..

CONT： ランプが点灯しつづけます。

OFF： ランプが消灯します。

26 LOCK

ロック機能の設定

設定項目：LK K+D/LK PTT/LK P+K/LK P+D/LK ALL/LK KEY/LKDIAL

工場出荷時：LK K+D

解説：

LK K+D： キーボードとDIAL ツマミの動作をロックします。

LK PTT： PTTスイッチをロックして、送信禁止にします。

LK P+K： PTTスイッチとキーボードの動作をロックします。

LK P+D： PTTスイッチとDIAL ツマミの動作をロックします。

LK ALL： PTTスイッチ、キーボード、DIAL ツマミの動作をロックします。

LK KEY： キーボードの動作をロックします。

LKDIAL： DIALツマミの動作をロックします。

27 M/T-CL

モニタースイッチ / T-CALL スイッチ変更設定

設定項目：MON/T-CALL

工場出荷時：MON

解説：

MON： モニターとして動作します。

T-CALL： トーンコールとして動作します。

28 NAME

メモリーの表示切り替え選択

設定項目：ALPHA/FREQ

工場出荷時：ALPHA

解説：

ALPHA： メモリーチャンネルにつけた名前を表示します。

FREQ： キメモリーチャンネルの周波数を表示します。

29 NM WRT

メモリーの名前入力

解説：メモリーチャンネルに、最大6桁の名前をつけることができます。

1. 名前をつけたいメモリーを呼び出す。
2. セットモード「29:NM WRT」を呼び出して、を押す。
3. 再びを押す。
4. DIAL ツマミで文字を選ぶ。
5. で次の桁に移る。
6. 4. ~5. を繰り返す。
7. を0.5秒以上押し、続けてPTTスイッチを押して終了です。

30 PSWD

パスワード機能の“ON/OFF”

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：正しいパスワードを入力しないと、電源をオンにすることができない“パスワード機能”をON/OFFします。

31 PSWD W

パスワードの入力

設定項目：4桁の英数字(0~9, A~F)

解説：パスワード機能動作時に入力するパスワードを設定します。

セットモードの動作一覧(5)

32 RESUME

スキャンストップモードの設定

設定項目：TIME/BUSY/HOLD

工場出荷時：TIME

解説：

TIME：スキャン停止後、約5秒経過するとスキャンを再開します。

BUSY：無信号状態が1秒以上続くと、スキャンを再開します。

HOLD：DIAL ツマミの操作があるまでスキャンを停止し、DIAL ツマミの操作後スキャンを再開します。

33 REV/HM

[HOME]キーを[REV]キーにするかの選択

設定項目：HOME/REV

工場出荷時：HOME

解説：

HOME：ホームチャンネルの呼び出しとして動作します。

REV：リバース設定として動作します。

34 RF SQL

RFスケルチの設定

設定項目：OFF/S-1/S-2/S-3/S-4/S-5/S-6/S-8/S-FULL

工場出荷時：OFF

解説：

S-1：Sメーターが“1”未満の信号の音声は出力しません。

S-2：Sメーターが“2”未満の信号の音声は出力しません。

S-3：Sメーターが“3”未満の信号の音声は出力しません。

S-4：Sメーターが“4”未満の信号の音声は出力しません。

S-5：Sメーターが“5”未満の信号の音声は出力しません。

S-6：Sメーターが“6”未満の信号の音声は出力しません。

S-8：Sメーターが“8”未満の信号の音声は出力しません。

S-FULL：Sメーターが“フルスケール”以外の信号の音声は出力しません。

OFF：RFスケルチ機能はオフになります。

35 RPT.MOD

レピータシフト方向の設定

設定項目：RPT.OFF/RPT. - /RPT. +

工場出荷時：RPT.OFF

解説：

RPT.OFF：シフト無し

RPT. -：マイナス方向

RPT. +：プラス方向

36 PRI.RVT

プライオリティチャンネルリバートの設定

設定項目：RVT.OFF/RVT.ON

工場出荷時：RVT.OFF

解説：

RVT.ON：プライオリティ受信時にPTTスイッチを押すと、瞬時にプライオリティチャンネルに切り替わり送信します。

RVT.OFF：プライオリティチャンネルリバートの機能がオフになります。

37 RXSAVE

受信セーブ時間の設定

設定項目：OFF/200MS/300MS/500MS/1SEC/2SEC

工場出荷時：200MS

解説：受信セーブのときは“SAVE”が点滅します(信号受信中は点灯)。

200MS(1:1)：200mS受信して200mSセーブ

300MS(1:1.5)：200mS受信して300mSセーブ

500MS(1:2.5)：200mS受信して500mSセーブ

1SEC(1:5)：200mS受信して1SECセーブ

2SEC(1:10)：200mS受信して2SECセーブ

OFF：受信セーブはオフになります。

38 S SRCH

スマートサーチ動作モードの設定

設定項目：SINGLE/CONT

工場出荷時：SINGLE

解説：

SINGLE：1回だけサーチします

CONT：スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返しサーチします。

セットモードの動作一覧(6)

39 SCN MD

メモリスキャンのスキャン動作選択

設定項目：MEM/ONLY

工場出荷時：MEM

解説：

MEM：特定のメモリーチャンネルをスキャンする必要の無いときに指定します。

ONLY：特定のメモリーチャンネルだけをスキャンしたいときに指定します。

40 SCN.LMP

スキャンストップ時のランプ点灯

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：ON

解説：スキャンがストップしたときの照明の点灯をON/OFFすることができます。

41 SHIFT

レピータシフト幅の設定

設定項目：0～99.95M

工場出荷時：0MHz

解説：レピータのシフト幅を設定します。

42 SKIP

スキップメモリーチャンネルの選択

設定項目：OFF/SKIP/ONLY

工場出荷時：OFF

解説：

SKIP：メモリスキャン時に、スキャンする必要のないメモリーチャンネルを指定します。

ONLY：メモリスキャン時に、スキャンしたいメモリーチャンネルを指定します。

OFF：スキップメモリーまたは特定メモリーをオフにします。

43 SPLIT

送受信個別のスケルチタイプの選択

設定項目：SPL.ON/SPL.OFF

工場出荷時：SPL.OFF

解説：送信と受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。ONにするとセットモード“44:SQL.TYP”に、D、T DCS、D TSQLの設定項目が追加されます。

D：送信のみDCSコードを送出します(“**DCS**”が点滅)。

T DCS：送信時にトーン信号を送出し、受信時にDCSコードで待ち受けします(“**T**”が点滅 “**DCS**”が点灯)。

D TSQL：送信時にDCSコードを送出し、受信時にトーン信号で待ち受けします(“**T SQ**”が点灯 “**DCS**”が点滅)。

44 SQL.TYP

トーンスケルチ/DCSの選択

設定項目：OFF/TONE/TSQL/REV TN/DCS

工場出荷時：OFF

解説：

TONE：トーン送出のみを行います(“**T**”が点灯)。

TSQL：トーンスケルチをオンにします。こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます(“**T SQ**”が点灯)。

REV TN：リバーストーン動作をオンにします。通話がないときにトーン信号が含まれ、通話を始めるとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通信を受信するときに使用します(“**T SQ**”が点滅)。

DCS：デジタルコードスケルチをオンにします。こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます(“**DCS**”が点灯)。

OFF：トーン送出、スケルチともにオフにします。

セットモードの動作一覧(7)

45 STEP

周波数ステップの設定

設定項目：AUTO/5.0/10/12.5/15/20/25/50/100 (kHz)

工場出荷時：AUTO

解説：DIAL ツマミや  /  を操作したときの、周波数変化量を変更することができます。

AUTO に設定してあくと、自動的に周波数の最適値設定されます。

46 TN FRQ

トーン周波数の設定

設定項目：67.0 ~ 254.1Hz (50 種類)

工場出荷時：88.5Hz

解説：50 種類のトーン周波数から選択することができます。

選択できるトーン周波数 (Hz)							
67.0	85.4	107.2	136.5	165.5	186.2	210.7	254.1
69.3	88.5	110.9	141.3	167.9	189.9	218.1	—
71.9	91.5	114.8	146.2	171.3	192.8	225.7	—
74.4	94.8	118.8	151.4	173.8	196.6	229.1	—
77.0	97.4	123.0	156.7	177.3	199.5	233.6	—
79.7	100.0	127.3	159.8	179.9	203.5	241.8	—
82.5	103.5	131.8	162.2	183.5	206.5	250.3	—

47 TOT

タイムアウトタイマー (TOT) の設定

設定項目：OFF/1MIN ~ 30MIN

工場出荷時：OFF

解説：タイムアウトタイマー (TOT：連続送信時間の制限) の時間を設定します。

48 TX LED

TX LED の “ON/OFF”

設定項目：LED.ON/LED.OFF

工場出荷時：LED.ON

解説：送信時に点灯する TX インジケータ (TX LED) を ON/OFF することができます。

49 TXSAVE

送信セーブ設定

設定項目：SAV.ON/SAV.OFF

工場出荷時：SAV.OFF

解説：送信セーブ機能を ON にすると、相手局の信号強度がフルスケールの場合、自動的に送信出力が下がります (HIGH パワーのときは MID パワーに、MID パワーのときは LOW パワーに下がります)。

50 VFO.SPL

VFO スプリットの設定

設定項目：VSP.OFF/VSP.ON

工場出荷時：ALL

解説：VFO モード時の周波数選択範囲を設定します。

VSP.OFF：現在受信している VFO (A または B) の周波数で送信します。

VSP.ON：現在受信している VFO-A の周波数で受信している場合は、VFO-B の周波数で送信します。また、VFO-B の周波数で受信している場合は、VFO-A の周波数で送信します。

51 WID.NAR

WIDE/NARROW の切り替え設定

設定項目：WIDE/NARROW

工場出荷時：WIDE

解説：

NARROW：送信変調度が通常の約半分になります。

WIDE：通常の送信変調度になります。通常は、この設定で使用してください。

52 EAI

EAI 機能の “ON/OFF” (間欠送信時間) 設定

設定項目：OFF/1 ~ 10/15/20/30/40/50 (M)

工場出荷時：OFF

解説：EAI 機能の間欠送信時間を設定します。

必要に応じて使う機能

セットモードの動作一覧(8)

※：オプションのFTD-7を搭載するとセットモードの53～57が追加されます。

53 ANI

ANI機能の“ON/OFF”

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：相手局に数字（0～9）とアルファベット（A～F）の文字を送ることができる、ANI機能をON/OFFすることができますその設定を行います。

設定方法は31ページを参照してください。

54 ANI.WRT

ANIコード（文字）の入力設定

設定項目：0～9, A～F

工場出荷時：未設定

解説：相手局に数字（0～9）とアルファベット（A～F）の文字を送ることができ、その設定を行います。

55 PAGER

ページャー機能の“ON/OFF”設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：ページャー機能を動作させるときにONに設定します。

56 PAG.COD

ページャーコードの設定

解説：9種類のページャーコードを登録することができます。

57 PAG.ABK

ページャーアンサーバックの“ON/OFF”

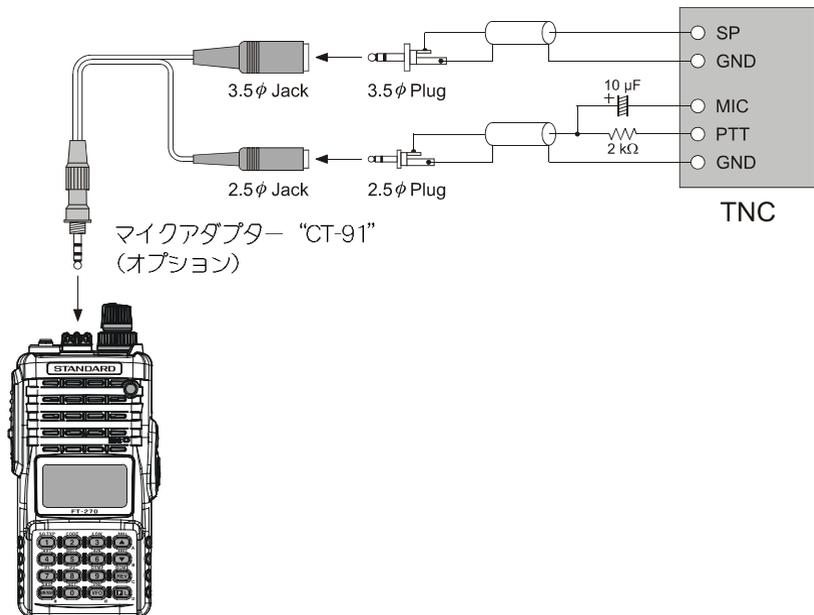
設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：呼び出しを受けた際、自動的に送信（約2.5秒間）状態になり、交信可能な状態かどうかを、相手に知らせることができます。

パケット通信に使う

オプションのマイクアダプター(CT-91)を使用すると、お手持ちのTNC(ターミナルノードコントローラー)を接続してパケット通信を行うことができます。



接続後、VOL ツマミをまわして、FT-270 から TNC への出力レベルを調節してください。

また、TNC 側の出力レベル調節用ボリュームで TNC から FT-270 への入力レベルを調節してください (FT-270 側では入力レベルは調節できません)。

- 大量のデータを転送するときには送信時間が長くなり、本機の発熱が大きくなります。長時間送信し続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下がります。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、送信が中止されて受信状態になります。過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源をオフまたは受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。
- パケット通信時には受信セーブ機能はオフに設定してください (セットモードの『37 : RXSAVE』)。
- パーソナルコンピューターで発生する雑音によって、受信が妨害される場合があります。正常に受信できない場合は、パーソナルコンピューターを FT-270 から離し、フォトカプラーやノイズフィルターを介して接続してください。
- TNC とパーソナルコンピューターの接続方法については、ご使用になる TNC の取扱説明書等をご覧ください。

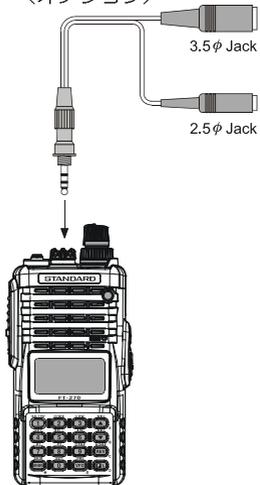
クローン操作

FT-270 同士を接続することにより、メモリー内容や各種設定内容をコピーすることができます。

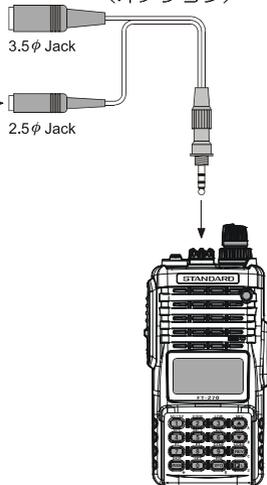
1. 2 台の FT-270 の電源をオフにします。
2. 自作のクローンケーブル (下図参照) をオプションのクローンケーブル CT-91 を使って、MIC/SP 端子に差し込み、FT-270 同士を接続します (下図参照)。
3. “モニタースイッチ” を押しながら電源をオンにします。
4. DIAL ツマミをまわして “F6・CLONE” にあわせて (G) を押します。
ディスプレイに “CLONE” が表示され、クローンモードになります。
5. 受け側の “モニタースイッチ” を押します。
ディスプレイに “--RX--” が表示されます。
6. 続いて送り側の PTT スイッチを 0.5 秒以上押します。
ディスプレイに “--TX--” が表示されます。
データのコピーが始まると、ディスプレイの S/PO メーターが、コピーの進行状況を示します。
コピーが終了すると、“--RX--” および “--TX--” の表示が消えます。
7. 電源をオフにし、クローンケーブルを外します。

- データの転送中に “ERROR” が表示された場合はエラーです。
クローンケーブルの接続を確認してもう一度やりなおしてください。

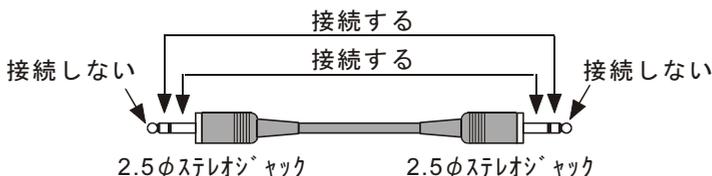
マイクアダプター “CT-91”
(オプション)



マイクアダプター “CT-91”
(オプション)



自作のクローンケーブル



クローンケーブル配線図

アマチュア無線局免許申請書の書きかた(2)

「アマチュア局の無線設備の保証認定願」 / 「アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願」の書きかた(付属装置がある場合)

FT-270に TNCなどの付属装置を接続する場合には「保証認定」で申請します。

《例：新規開局の場合》



アマチュア局の無線設備の保証願書

私は、アマチュア局の免許申請に係る無線設備の保証を受けたので、別紙の書類を添えて申し込みます。

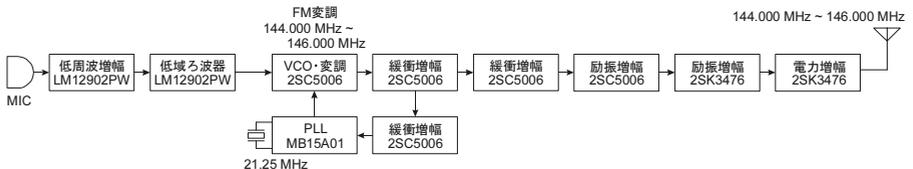
出願者		住所 社団の場合は 事務所の所在地		出願のH 年 月 日	
氏名 社団の場合は 代表者の氏名		社団の名称 社団の場合に限る		電話番号 FAX番号 Eメールアドレス	
免許を申請する無線設備	送信機番号	送信機の名称等	接続するフリースタの名稱等 (使用する場合は)	付属装置の有無 (使用する場合は)	保証料の払込みにかかる証明書の貼付欄 ・専用の払込用紙で払い込まれたときは、受付証明書(払込用紙右端部)をお貼り下さい。 ・汎用の払込用紙で払い込まれたときは、受領証の原本をお貼り下さい。 ・銀行口座に払い込まれたときは、取扱票の原本をお貼り下さい。 ・ATMで払い込まれたときは、取扱票の原本をお貼り下さい。 ・インターネット利用で払い込まれたときは、確認画面のハードコピーを添付して下さい。
	第1送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第2送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第3送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第4送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第5送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第6送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第7送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第8送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第9送信機			<input type="checkbox"/> 有	
	第10送信機			<input type="checkbox"/> 有	
その他の事項		電設法第3章に規定された条件に合致しています。			
遵守事項					
1 私は、無線設備が電波法第3章の技術基準に適合するよう、維持します。 2 私は、貴社から送付される放送受信障害、安全施設及び業務書類等の調査報告書を、免許後すみやかに提出します。 3 私は、貴社が行う管理の適正化及び正常な運用の確保のための調査に協力します。					
参考事項					
1 設備共用(設備を共用して同時に保証を申し込む者の氏名) 2 その他参考となる事項					

◎ 技術基準適合外の無線機と一緒に保証認定で申請(アマチュア局の無線設備の保証認定願/アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願)する場合であっても、FT-270に関しては技術基準適合機として申請できません。

◎ FT-270の技術基準適合番号は、背面の技術基準適合証明シールに記載されています。

◎ 『方式・規格』の記入事項については、お使いのTNCの取扱説明書を参照してください。

《送信機系統図》



付
録

周波数の使用区分

この使用区分は平成21年3月30日に総務省より施行されております。電波を発射するときは、下記の使用区分にしたがって運用してください。なお、使用区分は改訂される場合がありますので、最新情報はJARLニュース等でご確認ください。



狭帯域：電波の占有周波数帯幅が3kHz以下(A3Eを除く)のもの。

広帯域：電波の占有周波数帯幅が3kHzを超えるもの。

注1 144.10MHzから144.20MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信にも使用できる。この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は、3kHz以下のものに限る。

注2 144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って、広帯域の電話、電信および画像通信にも使用することができる。

防水 IPX7 (旧 JIS 保護等級 7 種防浸形) 相当について

本機の防水性能は、付属のアンテナと電池パックを取り付け、さらにMIC/SP端子、EXT DC端子のラバーキャップをしっかりと取り付けた状態で、水深1mの水没に30分間耐えることができます。この防水性能を永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

◎ キズ、劣化、汚れなどの確認

キーやスイッチのラバー、MIC/SP端子、EXT DC端子のラバーキャップ、電池パック接合部分。

◎ お手入れのしかた

海水・砂・泥などがついたときは真水でやや弱めの水流で洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。

◎ オーバーホールのお奨め

お買い上げから1年経過した後、オーバーホールを行って1年経過した後、またはキズ、劣化等が確認されたときはオーバーホールをお奨めします。なお、オーバーホール代金は有償となりますのであらかじめご承知ください。

◎ 下記の中に浸さないでください

海水・プール・温泉の中・石けんや洗剤、入浴剤の入った水・アルコールや薬品

◎ 下記の場所での長時間放置はさけてください

お風呂・台所・湿気の多い場所

◎ その他の注意

完全防水ではありませんので、水中での使用はできません。

故障かな？と思ったら

■電源が入らない

- 電池パックが消耗していませんか？(7ページ)
お買い上げ直後または長期間使用していないときは、電池パックを充電してください。
- 電池パックは正しくセットしてありますか？(6ページ)
“電池パックを準備する”を参照し、確実に取り付けてください。
- 外部電源の接続は間違っていないですか？(9ページ)
外部電源を使用するときには、必ずオプションのシガープラグ付き外部電源アダプター“E-DC-5B”または外部電源ケーブル“E-DC-6”を使用してください。
- 電池パックまたは、外部電源の電圧は正常ですか？(9ページ)
電池パックの場合は、残量があること、外部電源入力の場合は、電圧がDC12～14Vであることを確認してください。

■音が出ない

- スケルチ(またはRFスケルチ)のレベルや設定が大きくなっていませんか？(12, 44ページ)
モニタースイッチを押して、ザーという音が出ることを確認してください。
弱い信号を受信するときには、スケルチ(またはRFスケルチ)レベルを調整してください。
- VOL ツマミを左方向にまわしすぎていませんか？(12ページ)
- トーンスケルチ、DCSまたは、ページャー機能がオンになっていませんか？(37, 38ページ)
トーンスケルチ、DCSまたは、ページャー機能がオンのときには、設定したトーン周波数、DCSコード、または個別コードと同じ信号が含まれた信号を受信するまで音は出ません。

■電波が出ない

- PTT スイッチは確実に押していますか？(13ページ)
- PTT ロックがオンになっていませんか？(15ページ)
- BCL0機能がオンになっていませんか？(45ページ)
BCL0機能がオンのときには、信号を受信しているときにPTTスイッチを押しても、電波は出ません。信号がなくなるのを待ってからPTTスイッチを押してください。
- 送信周波数はアマチュアバンド(144.000～146.000MHz)になっていませんか？(13, 64ページ)
アマチュア無線のバンド以外では送信できません。
- 電池パックまたは外部電源の電圧は正常ですか？(8ページ)
電池パックの残量を確認してください。
また、送信時に電圧降下を起こすような電源では、FT-270の性能を十分に発揮することはできません。

■キーやDIAL ツマミを操作できない

- キーロックやDIAL ロックがオンになっていませんか？(15ページ)

索引(1)

A	
AP0	44
ARTS 機能	36
B	
BCLO 機能	45
C	
CWID の設定	47
CWID の登録	47
D	
DCS 機能	37
DCS コードサーチ	38
DCS コードを設定する	38
DTMF 機能	42
DTMF コードの送出	42
DTMF コードの登録	42
DTMF ページャー機能	30
E	
EAI 機能	32
EAI 機能で探索を行う	34
EAI 機能を動作させる	34
EAI 機能を動作させるための設定	33
F	
FRG 方式(WIRES)	17, 18
H	
HOME プライオリティ	41
L	
LOCK	15
P	
PMS	27
R	
RF スケルチ機能	44
S	
SRG 方式(WIRES)	19
T	
TOT	44
V	
VHF を選択する	14
VFO スキャン	26
W	
WIRES-II で交信する	16
あ	
アーツ機能	36
相手局のコードを設定する	28

アマチュア無線局免許申請書の書きかた ..	62
安全上のご注意	2
安定化電源を接続する	9
アンテナを取り付ける	5
え	
エマーゼンシーオートマチックID 機能 ...	32
エマーゼンシー機能	39
お	
オールリセット	15
お使いになる前に	5
オプション	4
音量を調節する	12
か	
外部電源を接続する	9
各種の便利な機能	28
各部の名称と働き	10
乾電池ケースの使いかた	8
き	
キー操作早見表	69
基本操作	12
緊急を知らせる	39
く	
クローン操作	61
こ	
し	
シガレットライターに接続する	9
自局のコードを設定する	28
指定した周波数範囲をスマートサーチする ..	35
指定メモリスキャン設定	43
自動的に電源をオフする	44
周波数の使用区分	64
周波数をあわせる	13
受信中に誤って送信しないようにする ..	45
使用時間の目安と残量表示	8
照明の点灯条件を変更する	45
状態が変わらないようにロックする	15
す	
スキャンスキップ設定	43
スキャン操作	26
スケルチのレベルを調節する	12
ステップを切り替える	46
スマートサーチ機能	35

索引(2)

せ	
セットモード項目順一覧	50
セットモードの動作一覧	51
セットモード番号順一覧	49
セットモードリセット	51
セミデュプレックスメモリー	23

そ	
操作音が鳴らないようにする	46
送信出力を切り替える	14
送信する	13

た	
ダイヤルプライオリティ	41
タイムアウトタイマー	44

て	
定格	68
ディスプレイの説明	11
電源を入れる	12
電池(電源)電圧を表示する	45
電池パックを充電する	7
電池パックを準備する	6
電池パックを取り付ける	6
電波を発射する前に	1

と	
トーンスケルチ機能	37
トーン周波数サーチ	38
トーンの周波数を設定する	37
同梱品	4
特徴	1
特定の局を呼び出す	29

は	
パケット通信	60
パスワード機能	40

ひ	
必要に応じて使う機能	40

ふ	
付属品を取り付ける	5
プライオリティ機能	41
プライオリティリバート	41
付録	62
プログラムスキャン	27
プログラマブルキー機能	46
プログラマブルメモリースキャン	27

へ	
ページャー機能	28, 30
ページャー機能を動作させる	29
ベル機能を使う	45
ベルトクリップを取り付ける	5

ほ	
ホームチャンネルを呼び出す	22
ホームチャンネルの周波数を変える	22
ホームプライオリティ	41

ま	
待ち受け時の動作	29
マニュアルでステップを切り替える	46

め	
メモリーオンリーモード	47
メモリースキャン	26
メモリーチャンネルに つけることができる文字・記号	21
メモリーチューン機能	23
メモリーに書き込む	20
メモリーバンクスキャン	26
メモリーバンクに登録する	24
メモリーバンクへの登録を解除する	25
メモリーバンクリセット	25
メモリーバンクリンクスキャン	26
メモリーバンクを使う	24
メモリーバンクを呼び出す	25
メモリープライオリティ	41
メモリーリセット	21
メモリーを消す	22
メモリーを使う	20
メモリーを呼び出す	22
免許申請書の書きかた	62

り	
リセット	
オールリセット	15
セットモードリセット	51
メモリーリセット	21
メモリーバンクリセット	25

れ	
連続送信時間を制限する(TOT)	44

ろ	
ロック	15

わ	
ワイヤーズで交信する	16

定格

■一般定格

送受信可能周波数範囲	: 送信周波数範囲 144 ~ 146MHz : 受信周波数範囲 136MHz ~ 174MHz (一部の周波数帯は受信できません)
送受信周波数ステップ	: 5/10/12.5/15/20/25/50/100kHz
電波型式	: F2D, F3E, F2A
通信方式	: 単信方式
周波数偏差	: $\pm 5\text{ppm}$ 以内($-10^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$)
アンテナインピーダンス	: 50 Ω
電源	: 定格 DC7.2V(電池/バックFNB-83使用時), マイナス接地 DC11.0V ~ 16.0V(充電時), マイナス接地
消費電流	: 動作可能範囲(外部電源入力) DC6.0V ~ 16V, マイナス接地 : 受信定格出力時 約165mA : 受信スケルチ時 約45mA : 受信バッテリーセーブ時 約20.5mA : 電源オフ時(APO) 約8mA : 送信時(5W): 約1.5A
使用温度範囲	: $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$
ケース寸法	: 幅60×高さ120×奥行き32mm(突起物を含まない)
本体重量	: 約390g(アンテナ, ベルトクリップ, 電池バックFNB-83を含む)

■送信部

送信出力	: 5W(HIGH/パワー), 2.0W(MD/パワー), 0.5W(LOW/パワー)
変調方式	: リアクタンス変調
最大周波数偏移	: $\pm 5\text{kHz}$
占有周波数帯域	: 16kHz以下
不要輻射強度	: 60dB以下(HIGH), 40dB以下(LOW)
マイクロホンインピーダンス	: 約2k Ω (エレクトレットコンデンサ型)

■受信部

受信方式	: ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン
中間周波数	: 第一IF周波数21.7MHz, 第二IF周波数450kHz
受信感度	: 136 ~ 140MHz (FM) 0.2 μV @12dB SINAD 140 ~ 150MHz (FM) 0.16 μV @12dB SINAD 150 ~ 174MHz (FM) 0.2 μV typ @12dB SINAD
選択度	: 12kHz/35kHz($-6\text{dB}/-60\text{dB}$)
付録 低周波定格出力	: 800mW以上(@7.4V) (16 Ω , THD10%), 内部スピーカー 450mW以上(@7.4V) (8 Ω , THD10%), 外部スピーカー端子
付録 低周波出力インピーダンス	: 8 Ω

定格値は常温・常圧時の値です。

キー操作早見表

キー&スイッチ	直接押す	0.5 秒以上押す	 を押した後に押す
PTT	送信	←	一時ハイパワー送信
モニター	スケルチオフ	←	再度押すまでスケルチオフ
ランプ	約5秒間照明が点灯	←	再度押すまで照明点灯
	インターネットモード	WiRESの アクセスコード選択	セットモード
	1を入力	—	トーンスケルチの種類選択
	2を入力	ARTS 機能	トーンまたはDCSコード選択 (トーンまたはDCS動作時のみ)
	3を入力	スマートサーチ	送信出力の変更 (HIGH: 5W/MID: 2W/LOW: 0.5W)
	4を入力	エマージェンシー機能	レピータシフト
	5を入力	—	ベル機能
	6を入力	プログラムスキャン	メモリー名/周波数表示の切り替え
	7を入力	—	プログラマブル1キー (受信セーブ時間の設定)
	8を入力	—	プログラマブル2キー (ランプモードの設定)
	9を入力	—	DTMF 送出方法選択
	メモリーモード切り替え	メモリー書き込みモード	スキップメモリーの設定
	VFO-A/VFO-B 切り替え	VFO 時: プログラムスキャンの動作選択 メモリー時: メモリーバンクの選択	プライオリティ機能
	ファンクションモード	ロック機能	ファンクションモードの解除
	周波数/ メモリーチャンネルの変更	UP 方向スキャン	周波数/メモリーチャンネルの変更
	周波数/ メモリーチャンネルの変更	DWN 方向スキャン	周波数/メモリーチャンネルの変更
	リバース (レピータ動作時のみ)	—	ホームチャンネル呼び出し



株式会社バーテックススタンダード
〒153-8644 東京都目黒区中目黒4-8-8



© 2010 株式会社バーテックススタンダード
無断転載・複写を禁ず